

授業概要

科目名	学習探求講座A	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
自身の学習方法の特徴を把握し、学習理論に基づいた勉強方法を理解することによって、主体的に自ら学び続ける習慣を身につける。また、様々な情報を客観的・批判的に吟味して、統合整理する思考を身につけ、自分の考えを表現する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験をしています。また、通信制の大学にて教育学を履修し、専任教員養成研修受講済み。現在は週に1度訪問リハビリで臨床を継続。講義・調べ学習・体験学習を通して作業療法士として必要な知識やマインドを身につけることを目的に授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各回で使用する参考図書は異なるため、使用した参考図書がある場合は各回で案内を行う。					必要が生じた場合には、各回で適宜案内を行う。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1・2 4/16	【授業単元】 オリエンテーション・学習方法について			17・ 18 6/18	【授業単元】 3Dプリンターについて				
	【到達目標】 授業の概要や進め方を理解することができる。 効果的な学習方法について説明することができる。				【到達目標】 3Dプリンターの概要について理解することができる。				
3・4 4/23	【授業単元】 社会人基礎力①			19・ 20 6/25	【授業単元】 臨床実習に向けた準備(自己紹介書・個人情報保護誓約書・お礼状・電話のかけ方)				
	【到達目標】 社会性基礎力の概要について理解することができる。 主体性などについて理解することができる。				【到達目標】 自己紹介書・個人情報保護誓約書・お礼状・電話を適切に書く・行うことができる。				
5・6 4/30	【授業単元】 自己理解・他者理解			21・ 22 7/5	【授業単元】 東京都作業療法学会				
	【到達目標】 自分の対人傾向を理解することができる 他者の感じ方の違いを理解することができる 相手を否定せず関わる視点を持つことができる				【到達目標】 東京都作業療法学会へ参加し、将来の職業像をイメージすることができる。				
7・8 5/14	【授業単元】 障害者スポーツについて①			23・ 24 7/5	【授業単元】 東京都作業療法学会				
	【到達目標】 障害者スポーツの概要について知ることができる。				【到達目標】 東京都作業療法学会へ参加し、将来の職業像をイメージすることができる。				
9・10 5/21	【授業単元】 障害者スポーツについて②			25・ 26 7/16	【授業単元】 調べ学習①・②				
	【到達目標】 障害者スポーツの概要について知ることができる。				【到達目標】 自身でテーマを設定し、設定したテーマについて調べ学習を行うことができる。				
11・ 12 5/28	【授業単元】 一般常識			27・ 28 7/23	【授業単元】 調べ学習③・④				
	【到達目標】 作業療法士に必要な一般的な常識を身につけることができる。				【到達目標】 自身でテーマを設定し、設定したテーマについて調べ学習を行うことができる。				
13・ 14 6/4	【授業単元】 国際的な作業療法について			29・ 30 7/30	【授業単元】 調べ学習⑤ 定期試験・振り返り				
	【到達目標】 世界の作業療法について説明することができる。				【到達目標】 自身の学びについて発表を行うことができる。				
15・ 16 6/11	【授業単元】 社会人基礎力② 中テスト			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(15回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の進捗や理解度、集団の学習状況によって適宜内容を変更することがあるため、その場合は適宜案内を行う。 主体性を持って 授業に参加しましょう。									

授業概要

科目名	学習探求講座B	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法士に必要な知識のみならず、身の回りで起こる様々な事象に対して関心を持つ心を養い、「すべてが学びになる」という視点を身につける。 文章読解、文章表現等の基本的なスキルを身につけ、自分の考えを表現できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害者領域で7年の臨床経験があり、大学院での研究や学会発表をしている教員が、ひとの多種多様な生活に関しての調べ学習や体験学習を通して、理解し、考え、表現するためのスキルについて伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考書は適宜紹介する					疑問に思ったことを調べること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション プレゼンカ				9	【授業単元】 人が行う地域活動(調べ学習)			
	【到達目標】 プレゼンを通して、伝わりやすい伝え方について考えることができる。					【到達目標】 調べ学習を通して、その地域活動の意味や目的について理解できる。			
2	【授業単元】 人が行う仕事(調べ学習)				10	【授業単元】 人が行う地域活動(発表)			
	【到達目標】 調べ学習を通して、その仕事の意味や目的について理解できる。					【到達目標】 発表を通して、伝わりやすい伝え方について考えることができる。			
3	【授業単元】 人が行う仕事(発表)				11	【授業単元】 地方の特徴(調べ学習)			
	【到達目標】 発表を通して、伝わりやすい伝え方について考えることができる。					【到達目標】 調べ学習を通して、その地方の文化や価値観を理解できる。			
4	【授業単元】 人が行う趣味(調べ学習)				12	【授業単元】 地方の特徴(発表)			
	【到達目標】 調べ学習を通して、その趣味の意味や目的について理解できる。					【到達目標】 発表を通して、伝わりやすい伝え方について考えることができる。			
5	【授業単元】 人が行う趣味(発表)				13	【授業単元】 暮らしやすい西葛西			
	【到達目標】 発表を通して、伝わりやすい伝え方について考えることができる。					【到達目標】 暮らしやすい西葛西にするためにフィールドワークを行い、問題点を挙げることができる。			
6	【授業単元】 年代別の出来事や流行(調べ学習)				14	【授業単元】 暮らしやすい西葛西			
	【到達目標】 調べ学習を通して、その年代別の出来事や流行の意味や目的について理解できる。					【到達目標】 暮らしやすい西葛西にするためにフィールドワークを行い、問題点を挙げることができる。			
7	【授業単元】 年代別の出来事や流行(発表)				15	【授業単元】 定期試験 調査報告会			
	【到達目標】 発表を通して、伝わりやすい伝え方について考えることができる。					【到達目標】 調査報告を他者へわかりやすく伝えることができる。 自分の考えをもって、プレゼンすることができる。			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 これまで調べ学習をした内容から、要点をまとめて発表ができる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト及び授業への参加態度の合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表またはレポートまたは筆記試験で行う。 ・毎回の小テスト及び確認テストは各回5点満点とし、そのうち第8回を15点として、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
学んだことを日常生活で振り返ること。									

授業概要

科目名	人の生活と作業	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大橋航祐				
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
人の生活は作業によって構成されています。人の生活を構成する作業について学び、ICFで捉えることができるようになる。加えて自身だけではなく、他者の生活、そして人生に共感、寄り添う力を育てます。この科目を終えたときに人の生活と作業について興味を持ち、作業療法士として働くことの魅力を自身の言葉で言語化できるようになる。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として精神科病院、発達児童の放課後等デイサービス、訪問リハビリを経験。体験を中心に組み立て、演じることと役割を担いながら、人の生活と作業についての構造的な理解を促していく。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
「作業」って何だろうー作業科学入門第2版						自身の生活の中で振り返りを行うこと					
コマ	授業計画					コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション					9	【授業単元】 制作(撮影と編集)②				
	【到達目標】 この科目の目的を理解し、人の生活と作業について興味をもつことができる						【到達目標】 人の生活と作業の魅力について深める				
2	【授業単元】 映画づくりとドラマセラピー					10	【授業単元】 制作(撮影と編集)③				
	【到達目標】 映画視聴を通じ、人の生活とは何か？作業とは何か？について考えを巡らし、自分なりに疑問を抱くことができる。						【到達目標】 人の生活と作業の魅力について深める				
3	【授業単元】 制作準備ー演劇と物語と表現ー					11	【授業単元】 制作(撮影と編集)④				
	【到達目標】 ワークを通じて演じる力と展開する力と伝える力を養う						【到達目標】 人の生活と作業の魅力について深める				
4	【授業単元】 映画をつくるにあたってのチームづくり					12	【授業単元】 制作(撮影と編集)⑤				
	【到達目標】 映画をつくるということにおいて自身の強みとはなにかを考え、各々の意思でチームを組むことができる						【到達目標】 人の生活と作業の魅力について深める				
5	【授業単元】 チームでの企画づくり①					13	【授業単元】 制作(撮影と編集)⑥				
	【到達目標】 チーム内で意見を出し合い、作品の企画を進めることができる						【到達目標】 人の生活と作業の魅力について深める				
6	【授業単元】 チームでの企画づくり②					14	【授業単元】 放映会				
	【到達目標】 チーム内で意見を出し合い、作品の企画を進めることができる						【到達目標】 異なる作業のあり方を知り、深める機会とする				
7	【授業単元】 中間テスト					15	【授業単元】 まとめ 定期テスト				
	【到達目標】 チームごとに企画書を提出する。企画書を中間テストの採点対象とする。						【到達目標】 これまでの内容を振り返り、目指す作業療法士像を明確化できる。				
8	【授業単元】 制作(撮影と編集)①					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト及び授業への参加態度の合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表またはレポートまたは筆記試験で行う。 ・毎回の小テスト及び確認テストは各回5点満点とし、そのうち第8回を15点として、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。					
	【到達目標】 人の生活と作業の魅力について深める										
【履修に当たっての心構え・留意点】 授業の中で自分で考え、それを言葉として表現するようにしてください。											

授業概要

科目名	人の生活と作業	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
障害とは何かを自分の言葉で説明できる。 様々な立場による価値観を理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は身体障害領域で7年の臨床経験があり、大学院での研究や学会発表をしている。人が行っている作業について、自分自身の振り返りをもとに、作業の考え方の幅を広げていくように講義やディスカッションを行っていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「作業」って何だろうー作業科学入門第2版					自身の生活の中で振り返りを行うこと				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 生活時間構造① 【到達目標】 人の生活と作業がどのように構成されているかを理解できる。				9	【授業単元】 ICFから作業を考える① 【到達目標】 ICFの概要がわかる ICFに基づいて自身の作業について考えることができる			
	【授業単元】 生活時間構造② 【到達目標】 人の生活と作業がどのように構成されているかを理解できる。					10 【授業単元】 ICFから作業を考える② 【到達目標】 ICFの概要がわかる ICFに基づいて自身の作業について考えることができる			
3	【授業単元】 人と文化 作業の力、文脈・価値 【到達目標】 作業の力について理解することができる。 それぞれの文脈(文化)によって価値が異なることを理解できる。				11	【授業単元】 ディベート① 【到達目標】 対立する意見を建設的に話し合うことができる。			
	【授業単元】 作業科学① 【到達目標】 作業の意味、機能、形について理解できる。					12 【授業単元】 ディベート② 【到達目標】 対立する意見を建設的に話し合うことができる。			
5	【授業単元】 作業科学② 【到達目標】 作業の意味、機能、形について理解できる。				13	【授業単元】 作業療法士の実践① 【到達目標】 作業療法士の実践の仕事と現在学んでいる内容の繋がりを理解できる。			
	【授業単元】 障がい当事者の生活①(車椅子ユーザーの方) 【到達目標】 当事者からリアルな生活を聴取し、障害とは何かを考えることができる。					14 【授業単元】 作業療法士の実践② 【到達目標】 作業療法士の実践の仕事と現在学んでいる内容の繋がりを理解できる。			
7	【授業単元】 障がい当事者の生活②(認知症のある方) 【到達目標】 当事者からリアルな生活を聴取し、障害とは何かを考えることができる。				15	【授業単元】 まとめ 定期テスト 【到達目標】 これまでの内容を振り返り、目指す作業療法士像を明確化できる。			
	【授業単元】 前期の振り返り 中テスト 【到達目標】 振り返りと中テストにてこれまでに学んだことの理解度を知ることができる。 障害とは何かについて自分なりの考えを持つことができる。					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト及び授業への参加態度の合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表またはレポートまたは筆記試験で行う。 ・毎回の小テスト及び確認テストは各回5点満点とし、そのうち第8回を15点として、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の中で自分で考え、それを言葉として表現するようにしてください。									

授業概要

科目名	一般心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	山岸 有里		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
保育実践に関わる発達理論、心理学的知識をふまえ、子どもの発達を捉える視点を習得し、乳幼児期の子どもの学びの過程や特性、発達に即したリハビリテーションと保育の相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 また、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について学び、障害を持った幼児期の療育について考察を深める。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
カウンセラーとして、30年勤務し心理学、カウンセリング、心理検査、心理演習等の科目の講義経験がある。保育園での、入学準備プログラムを5歳児に実施。加えて、プログラム開発を行っている。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・教科書なし ・事前に資料をチームスに提示					自分のノートが教材であり、資料として在籍中の実習や、卒業後も使えるものを作っていくので、随時作成したノートの提出、共有をします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 心理学(発達心理学)とは？ ・0歳～5歳までの乳幼児ってどんな感じ？ 各発達段階について理解を深める				9	【授業単元】 幼児(4、5歳児)との関りを通して、学びを深めるため、リハビリの視点で運動機能を高める遊びを考える①			
	【到達目標】 発達段階について理解する 具体的な事例を通して、0歳児～5歳児までの乳幼児のイメージをつかむ 小テスト:上記内容を確認(5点)					【到達目標】 スケジュールを立て、進捗を確認。報告。			
2	【授業単元】 1.乳児期(0～1歳) ・乳児(0～1歳)は何かできる？ ・感覚統合・運動発達、口腔運動って何？				10	【授業単元】 幼児(4、5歳児)との関りを通して、学びを深めるため、リハビリの視点で運動機能を高める遊びを考える①			
	【到達目標】 感覚統合、運動発達、口腔運動について理解し、支援ができる知識を持つ					【到達目標】 スケジュールを立て、進捗を確認。報告。			
3	【授業単元】 「遊びを通じた介入」「保護者との関係性」を事例を通して学びを深める				11	【授業単元】 幼児(4、5歳児)との関りを通して、学びを深めるため、リハビリの視点で運動機能を高める遊びを考える①			
	【到達目標】 事例検討を行い、発表することを通して理解を深める					【到達目標】 スケジュールを立て、進捗を確認。報告。			
4	【授業単元】 2.幼児期(1～3歳) ・幼児期(1～3歳)は何かできる？ ・精細運動・粗大運動、社会性発達って何？				12 7/10	【授業単元】 こどもたちと遊びを通して、運動機能を高める。			
	【到達目標】 精細運動・粗大運動、社会性発達について、説明できる					【到達目標】 当日の自己評価を行う			
5	【授業単元】 「遊びを通じた同世代(1～3歳)の関わり」「保護者との関係性」を事例を通して学びを深める				13	【授業単元】 心理学理論について事例を使って理解を深める① ・心理的、保育視点をそれぞれ理解する			
	【到達目標】 事例検討を行い、発表することを通して理解を深める					【到達目標】 小テストで、視点の理解度を確認する			
6	【授業単元】 3.3～6歳 ・3～6歳は何かできる？ ・前庭感覚、視覚運動協応、認知機能って何？				14	【授業単元】 心理学理論について事例を使って理解を深める① ・心理的、保育視点をそれぞれ理解する			
	【到達目標】 前庭感覚、視覚運動協応、認知機能について説明できる					【到達目標】 小テストで、視点の理解度を確認する			
7	【授業単元】 「遊びを通じた同世代(3～6歳)の関わり」「保護者との関係性」を事例を通して学びを深める				15	【授業単元】 定期試験(60分)、解説を踏まえて総復習を行う			
	【到達目標】 事例検討を行い、発表することを通して理解を深める					【到達目標】 定期試験 60点分			
8	【授業単元】 中テスト 乳児期～幼児期の発達段階の理解度を確認する				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 小テスト20点分の8割の理解を目指す								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
主体的に学び姿勢。 協働しての学びを中心に行うので、他者の意見を取り入れる意識を持ってください。									

授 業 概 要

科目名	情報処理入門	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Excelを利用し表計算やグラフ作成を行える ・Wordを利用し、複合文書を作成できる ・図解や画像を駆使した、訴求力のあるプレゼン資料を作成して発表できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 入門：IT・DXリテラシー 滋慶学園IT・DXリテラシー理解度テスト			9	【授業単元】 PowerPointダイジェスト 基本操作				
	【到達目標】 講座を受講する意義を理解し、IT・DXリテラシーを知り、情報を正しく活用できる				【到達目標】 プレゼンテーションソフトの基本操作ができる				
2	【授業単元】 入門：PC基本操作 マウス操作、ファイルの管理、タイピングの基礎、キーボードの機能			10	【授業単元】 PowerPointアドバンス				
	【到達目標】 Windowsの基本操作ができる				【到達目標】 デザインに配慮した図解を作成し、表や図表を効果的に活用できる				
3	【授業単元】 Word基礎1 基本操作			11	【授業単元】 PowerPoint自己紹介作成				
	【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる				【到達目標】 学習したPowerPoint操作を使って発表用のスライドを作成できる				
4	【授業単元】 Word基礎2 画像や図形			12	【授業単元】 PowerPointブラッシュアップ				
	【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる				【到達目標】 フォントや配色を工夫して見やすいスライドを作成できる				
5	【授業単元】 Word基礎3 表の作成			13	【授業単元】 PowerPoint発表				
	【到達目標】 表を駆使した文書を作成できる				【到達目標】 作成したプレゼン資料を使って発表できる				
6	【授業単元】 Word試験対策			14	【授業単元】 PowerPoint試験対策				
	【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				【到達目標】 PowerPoint講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				
7	【授業単元】 Word中テスト			15	【授業単元】 PowerPoint試験				
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる				【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、PowerPoint資料を作成できる				
8	【授業単元】 Excel基礎1 Excelの基本操作			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 Excelの基本的な操作(表作成・計算・グラフ作成)ができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

授 業 概 要

科目名	医療生命倫理	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
以下に記す学びを通して、作業療法士という専門家になるための自己覚知の基盤を形成する。 1.作業療法を始めとしたリハビリテーション分野における倫理及び、医療・福祉における倫理について 2.医療倫理におけるディスカッション/ディベートを通して、他者の考えや価値観に触れ、自己を内省しながら医療従事者となるための自己覚知を行う									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として身体障害分野で急性期から生活期まで18年間の臨床経験を基に作業療法士として必要な倫理観を講義・演習を通して教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 (9/11)	【授業単元】 医療生命倫理概論				9 (11/6)	【授業単元】 研究と研究倫理について			
	【到達目標】 倫理を学ぶ必要性を理解し、気付くことができる。 医療倫理における歴史を学び、現在までの流れを説明できる。					【到達目標】 医療系研究における基本と倫理について理解できる。			
2 (9/18)	【授業単元】 医療生命倫理概論				10 (11/13)	【授業単元】 研究と研究倫理について			
	【到達目標】 倫理を学ぶ必要性を理解し、気付くことができる。 医療倫理における歴史を学び、現在までの流れを説明できる。					【到達目標】 医療系研究における基本と倫理について理解できる。			
3 (9/25)	【授業単元】 作業療法士の倫理について				11 (11/27)	【授業単元】 エビデンスに基づいた作業療法の提供①			
	【到達目標】 作業療法士協会における倫理綱領から職業イメージができる。					【到達目標】 エビデンスに基づいた作業療法を提供するための意思決定のプロセスを理解する。			
4 (10/2)	【授業単元】 医療倫理と現場 ～患者様のご家族からお金を袖下に入れられた！さてどうする！？～				12 (12/18)	【授業単元】 エビデンスに基づいた作業療法の提供② 実際にプログラムを考えてみる。			
	【到達目標】 グループワークを通して、現場で倫理観を維持するための行動を身につける。					【到達目標】 エビデンスに基づいた作業療法を提供するための意思決定のプロセスを理解する。			
5 (10/9)	【授業単元】 医療倫理と現場 ～対象者へ作業療法を提供する品質をどう担保する？①～ 担当者変更をどう捉えるか。				13 (1/15)	【授業単元】 エビデンスに基づいた作業療法の提供③ 実際にプログラムを考えてみる。			
	【到達目標】 ディベートの準備が出来る。					【到達目標】 エビデンスに基づいた作業療法を提供するための意思決定のプロセスを理解する。			
6 (10/16)	【授業単元】 医療倫理と現場 ～対象者へ作業療法を提供する品質をどう担保する？①～ 担当者変更をどう捉えるか。				14 (1/22)	【授業単元】 総復習			
	【到達目標】 ディベートを通して、相手の主張を受け止めながら自己の考えを伝える。					【到達目標】 これまでの授業内容を整理することができる。			
7 (10/23)	【授業単元】 医療倫理と現場 ～対象者へ作業療法を提供する品質をどう担保する？②～ 自己研鑽をどう捉えるか。(外部の勉強会参加、読書等)				15 (1/29)	【授業単元】 定期試験 まとめ			
	【到達目標】 ディベートの準備が出来る。					【到達目標】 定期試験の合格 授業を総括して今後の学習に役立てる。			
8 (10/30)	【授業単元】 医療倫理と現場 ～対象者へ作業療法を提供する品質をどう担保する？②～ 自己研鑽をどう捉えるか。(外部の勉強会参加、読書等)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・小テストは授業ごと行う ・中テストは8回目に実施する ・定期試験は15回目に実施する。				
	【到達目標】 ディベートを通して、相手の主張を受け止めながら自己の考えを伝える。				試験内容は単元に即して担当教員が決める。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。									

授業概要

科目名	コミュニケーション論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
良好な人間関係を築き、協働することができるコミュニケーション能力を身につける。 カウンセリング理論を中心とした人間関係論や相互交流的リーズニングについて理解する。省察により自己理解を深めることによって、対話スキル、自己表現スキル、社会的スキルなどを身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域、教育現場で約14年間経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行っています。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					コミュニケーションについて関心を持ち、学習したことを日頃から実践していきます。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 コミュニケーションの必要性について考えることができる			9	【授業単元】 社会的スキル、マナーについて理解し実践できる①				
	【到達目標】 社会人として、職業人として、コミュニケーションの必要性について考えることができる 上記の場面について具体的なイメージを持つことができる				【到達目標】 自己管理について考え、実践できる				
2	【授業単元】 基本的対話スキルについて理解し実践できる			10	【授業単元】 社会的スキル、マナーについて理解し実践できる②				
	【到達目標】 話す(送信)、聴く(受信)について理解し実践できる ノンバーバルコミュニケーション、意見交換について理解し実践できる				【到達目標】 挨拶、敬語、電話対応、接客、訪問、謝罪について学び、実践できる 文書作成について学び、実践できる				
3	【授業単元】 自己表現スキルについて理解し実践できる①			11	【授業単元】 臨床で役立つコミュニケーション技法について知り実践できる①				
	【到達目標】 挨拶・自己紹介・頼み方・断り方について理解し、実践できるようになる アサーティブコミュニケーションについて理解し、実践できるようになる				【到達目標】 医療面接についてイメージを持ち、必要なテクニックについて理解できる 質問の仕方についてのバリエーションを知り、実践できる				
4	【授業単元】 自己表現スキルについて理解し実践できる②			12	【授業単元】 臨床で役立つコミュニケーション技法について知り実践できる②				
	【到達目標】 自分自身について理解することができる 自己概念、自己肯定感について考えることができる				【到達目標】 話す技術と聞く技術について知り、実践できる				
5	【授業単元】 自己表現スキルについて理解し実践できる③			13	【授業単元】 臨床で役立つコミュニケーション技法について知り実践できる③				
	【到達目標】 アンガーマネジメントを理解し、実践できる				【到達目標】 臨床現場でのコミュニケーション場面についてイメージし、必要なコミュニケーションをとることができるようになる①				
6	【授業単元】 自己表現スキルについて理解し実践できる④			14	【授業単元】 臨床で役立つコミュニケーション技法について知り実践できる④				
	【到達目標】 プレゼンテーションスキルについて理解し、実践できる①				【到達目標】 臨床現場でのコミュニケーション場面についてイメージし、必要なコミュニケーションをとることができるようになる②				
7	【授業単元】 自己表現スキルについて理解し実践できる⑤			15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト解説				
	【到達目標】 プレゼンテーションスキルについて理解し、実践できる②				【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト解説			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小・中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験またはTeamsを利用して行う。					
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 将来作業療法士となるという自覚を持ち、作業療法への理解を深め、自身の目標とする作業療法士像をかたちづくっていきましょう。									

授業概要

科目名	学生生活論	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	田中直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法士を目指す学生一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて、必要な能力や態度を育てることを通して、キャリア発達に寄与する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験をしています。また、通信制の大学にて教育学を履修し、専任教員養成研修受講済み。現在は週に1度訪問リハビリで臨床を継続。作業療法士として必要な知識やマインドを身につけることを目的に授業を実施する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各回で使用する参考図書は異なるため、使用した参考図書がある場合は各回で案内を行う。					必要が生じた場合には、各回で適宜案内を行う。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1 4/13	【授業単元】 オリエンテーション 授業の受け方について			9 9/10	【授業単元】 実習に向けて				
	【到達目標】 科目の目的、重要性を理解することができる。 授業の受け方を理解でき、授業をスムーズに受講することができるようになる。				【到達目標】 実習に向けて概要や必要な行動を述べることができる。				
2 4/27	【授業単元】 GWに向けて・振り返り 5月以降のスケジュール			10 9/24	【授業単元】 実習に向けて				
	【到達目標】 GWの計画をたて、効果的な行動をとることができる。 2週間を振り返り、今後の対策を立てることができる。 5月以降のスケジュールを把握することができる。				【到達目標】 OSCEの概要を理解し、効果的な行動の計画を立てることができる。				
3 5/18	【授業単元】 スポフェスに向けて			11 10/2	【授業単元】 実習に向けて				
	【到達目標】 スポフェスに向けて、グループで協力しながら、計画を立てることができる。				【到達目標】 OSCEのに向けて求められている内容を実施することができる。				
4 6/9	【授業単元】 レクリエーション企画①			12 11/1	【授業単元】 実習に向けて				
	【到達目標】 スポフェスに向けて、グループで協力しながら、計画を立てることができる。				【到達目標】 OSCEにて求められた内容を実施することができる。				
5 6/22	【授業単元】 レクリエーション企画②			13 11/2	【授業単元】 実習に向けて 冬休みにに向けて				
	【到達目標】 スポフェスに向けて、グループで協力しながら、計画を立てることができる。				【到達目標】 実習に向けて必要な行動を述べる。 冬休みにに向けて効果的な行動を計画することができる。				
6 7/6	【授業単元】 レクリエーション実践			14 1/18	【授業単元】 冬休み振り返り 定期試験案内				
	【到達目標】 今まで計画してきた内容を全体に向けて実施することができる。				【到達目標】 冬休みの行動を振り返り、必要に応じて改善した行動を行うことができる。 定期試験の概要について述べる。				
7 7/20	【授業単元】 レクリエーション振り返り 中テストの案内			15 2/1	【授業単元】 総復習・振り返り 定期テスト				
	【到達目標】 実施したプログラムについて、振り返りを通し、今後に応用することができる。				【到達目標】 次年度に向けて効果的な行動を立てることができる。				
8 7/27	【授業単元】 前半のまとめ・Jweb 中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験もしくは口頭試験で評価する。定期テストは筆記試験とする。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。 夏休みにに向けて効果的な行動を計画することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の進捗や理解度、集団の学習状況によって適宜内容を変更することがあるため、その場合は適宜案内を行う。不定期に実施する科目のため必要に応じて日程変更をすることがあります。主体性を持って、授業に参加しましょう。									

授業概要

科目名	解剖学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野吉郎		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
人体の構造をミクロ、マクロの両視点から捉え、作業療法士が修得すべき人体の解剖学的知識を身に着ける									
【学習内容】									
医歯系総合大学で長く解剖学と組織学の教育に携わってきた教員が、作業療法士を志す諸君が修得すべき人体の正常構造と機能について、筋・骨格系(運動器)、神経系、内臓諸器官系にわけてわかりやすく解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学【解剖学(第6版)】医学書院					各回とも、参考図書と教員作成の事前配布資料に目を通し、最低でも30分程度の予習が望まれる				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 解剖学入門 人体の基本構造 細胞の構造と機能				17	【授業単元】 体幹背側の筋 上肢帯の筋			
2	【到達目標】 ・生物としての人体の基本構造を理解する ・研究方法の違いによる解剖学の分類(肉眼解剖学、顕微解剖学、画像解剖学)を理解する ・人体各部の区分、方向を示す主な解剖学用語を習得し、身体部位を表現できる ・細胞の基本構造を理解し主な細胞小器官の役割を説明できる				18	【到達目標】 ・浅背筋、深背筋の区分、起始・停止と作用を説明できる ・固有背筋・脊柱起立筋の走行と作用を説明できる ・上肢帯の筋(肩関節の運動に関わる筋)の起始・停止、作用を説明できる			
3	【授業単元】 細胞の増殖と分化 人体の基本構成要素:上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織 人体の発生と形態形成				19	【授業単元】 上肢の筋 胸壁、腹壁を構成する筋			
4	【到達目標】 ・体細胞分裂と生殖細胞の減数分裂の仕組みの違いを説明できる ・人体の発生(受精～着床～胚盤形成～胚子発生)の概略を説明できる ・人体の四大組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)の特徴と胚葉由来を説明できる ・上皮組織の分類と機能を説明できる				20	【到達目標】 ・上腕と前腕の筋:起始・停止、作用を説明できる ・手根管を通過する構造を列記できる ・手の内在筋の起始・停止、作用を説明できる ・胸壁、腹壁を構成する筋の起始・停止、作用を説明できる			
5	【授業単元】 特殊な支持組織【骨】骨の構造と発生様式 骨の連結と人体骨格				21	【授業単元】 下肢帯の筋 自由下肢(大腿、下腿、足)の筋			
6	【到達目標】 ・骨の基本構造と二つの異なる発生様式を説明できる ・人体骨格をつくる骨の連結様式を説明できる ・骨の可動性連結(関節)の分類ができる ・関節の補助装置を列挙し、構造と機能を説明できる				22	【到達目標】 ・下肢帯の筋(内寛骨筋と外寛骨筋)の起始・停止、作用を説明できる ・大腿と下腿の筋を説明できる ・足の内在筋を説明できる ・足根管を通過する構造を列記できる			
7	【授業単元】 体幹の骨 脊柱、胸郭、骨盤を構成する骨				23	【授業単元】 頭部・顔面の筋、頸部の筋			
8	【到達目標】 ・脊柱を構成する椎骨(頸椎、胸椎、腰椎)の形態的特徴を説明できる ・一次弯曲、二次弯曲を説明できる ・胸郭を構成する骨を説明できる ・下肢帯(骨盤)を構成する骨を説明できる				24	【到達目標】 ・浅頭筋、深頭筋を区別できる ・舌骨上筋群、舌骨下筋群を説明できる 【授業単元】 神経系の概要 ・中枢神経系と末梢神経系 【到達目標】 ・中枢神経系(脳/脊髄)・末梢神経系の構成と発生の概要を理解する			
9	【授業単元】 上肢帯と自由上肢(上腕、前腕、手)の骨 肩関節と肘関節				25	【授業単元】 末梢神経系: 脊髄神経と脊髄神経叢			
10	【到達目標】 ・上肢帯と自由上肢骨の形態と連結様式を説明できる ・上肢帯と体幹の連結を説明できる ・肩関節と肘関節の構造を説明できるようにする				26	【到達目標】 ・頭神経、胸神経、腰神経、仙骨神経の線維走行と支配域の概略を説明できる ・神経叢(頭神経叢、腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢)の線維構成と神経叢から出る主要な枝の分布域を示すことができる			
11	【授業単元】 手の骨 下肢の骨 下肢の関節				27	【授業単元】 末梢神経系: 脳神経①			
12	【到達目標】 ・手根骨、中手骨、指骨の配列と連結様式を理解する ・大腿、下腿、足の骨の構造と関節の特徴を説明できる ・膝関節の補助装置を説明できる				28	【到達目標】 ・第I～第XII脳神経の名称と支配域の概要を説明できる ・各脳神経が頭蓋度を抜けて出る骨孔の名称を示すことができる ・副交感性線維を含む脳神経を挙げることができる			
13	【授業単元】 頭部・顔面の骨 【到達目標】 ・脳頭蓋、顔面頭蓋を構成する骨と、それらの主な連結様式を説明できる ・副鼻腔を有する骨、鼻中隔を構成する骨を列記できる ・頭蓋底の脳神経通過孔を確認する				29	定期試験 【到達目標】 総合判定で合格するに足る得点を定期試験で獲得する			
14	【前期前半の履修内容の整理】				30	定期試験問題の解説			
15	中テスト 【授業単元】 筋学総論: 組織構造に基づく筋の区分と収縮機構				科目の評価は、定期試験60%、小・中テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行います。 毎回授業後に行う小テストは各回5点満点、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とし、その合計(80点)の1/2の点数を小・中テストの合計点とします。またその数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとします。				
16	【到達目標】 ・筋の組織構造に基づく分類と収縮機構の特徴を説明できる ・器官としての骨格筋の形態に基づく分類名、起始・停止を説明できる ・骨格筋の、補助装置の種類と役割を説明できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
この授業は諸君が事前に参考図書と配布資料に目を通し、予習してくることを前提にしています。予習中に生じた疑問や不明点については授業中に遠慮なく発言し、その授業の中で解決するようにして学習効率を高めましょう。									

授 業 概 要

科目名	解剖学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	高野吉郎		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人体の構造をミクロ、マクロの両視点から捉え、作業療法士が修得すべき人体の解剖学的知識を身に着ける									
【学習内容】									
医歯系総合大学で長く解剖学と組織学の教育に携わってきた教員が、作業療法士を志す諸君が修得すべき人体の正常構造と機能について、筋・骨格系(運動器)、神経系、内臓諸器官系にわけてわかりやすく解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学【解剖学(第5版)】医学書院					各回とも、参考図書と教員作成の事前配布資料に目を通し、最低でも30分程度の学習が望まれる				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 ・ 2	【授業単元】 消化器系 ・消化器系の構成(消化管と付属器) ・消化管の構造と機能 【到達目標】 ・消化器系の概要を説明できる ・口腔の構造と機能を説明できる ・嚥下に伴う舌と口咽頭、喉頭の動きを理解できる				9 ・ 10	【授業単元】 中枢神経系 ・大脳 ・間脳 【到達目標】 ・大脳の基本構造を説明できる ・大脳皮質の組織構築と機能局在を説明できる ・大脳髓質の線維走行と大脳基底核を説明できる ・間脳の構成と機能の概略を説明できるようになる 【授業単元】 間脳(視床、視床下部) 脳幹(中脳、橋、延髄) 【到達目標】 ・間脳の構成と機能の概略を説明できるようになる ・脳幹(中脳、橋、延髄)の基本構造を説明できる ・脳幹を貫く下行性、上行性伝導路を説明できる			
	【授業単元】 消化器系 ・消化管の構造と機能 【到達目標】 ・食道～肛門に至る消化管各部の管壁の構造の特徴を説明できる ・消化管各部に於ける粘膜の構造の違いを説明できる ・消化管各部での腸間膜の有無を説明できる					【授業単元】 消化器系 消化管の付属器(付属臓):肝、胆、膵 【到達目標】 肝臓、胆嚢、膵臓の位置と基本構造を説明できる 肝臓、胆嚢、膵臓の分泌導管の走行と開口部を説明できる			
	【授業単元】 呼吸器系 【到達目標】 ・上気道、下気道、呼吸部を区別することができる ・胸郭内での肺の位置、気管支の走行の左右差を説明できる ・肺胞の構造を説明できる ・肺の機能動脈と栄養動脈を説明できる					【授業単元】 脳 ・脳室と髄液 【到達目標】 ・脳の被膜の構造と分布、脳を養う血管とのかかわりを理解する ・脳室系の分布を説明できる ・髄液の産生部位と髄液の流路を説明できる			
3 ・ 4	【授業単元】 消化器系 消化管の付属器(付属臓):肝、胆、膵 【到達目標】 肝臓、胆嚢、膵臓の位置と基本構造を説明できる 肝臓、胆嚢、膵臓の分泌導管の走行と開口部を説明できる				11 ・ 12	【授業単元】 脊髄の基本構造と伝導路 【到達目標】 ・脊髄の基本構造を説明できる ・脊髄と脊髄神経の関係(線維連絡)を説明できる ・脊髄の上行性、下行性伝導路を説明できるようになる			
	【授業単元】 呼吸器系 【到達目標】 ・上気道、下気道、呼吸部を区別することができる ・胸郭内での肺の位置、気管支の走行の左右差を説明できる ・肺胞の構造を説明できる ・肺の機能動脈と栄養動脈を説明できる					【授業単元】 自律神経系 ・交感神経系 ・副交感神経系 【到達目標】 ・交感ニューロンと副交感ニューロンの局在部位と線維走行の違いを説明できる ・交感神経節と副交感神経節の局在を説明できる ・自律神経系における知覚ニューロンの求心路を説明できる			
	【授業単元】 泌尿器系 腎臓(尿産生装置)と尿管系(尿路) 【到達目標】 ・腎臓の位置と基本構造、尿産生の仕組みの概要を理解する ・尿産生装置(ネフロンと集合管)の構造と機能を理解する ・排尿路(腎杯、腎盂、尿管、膀胱、尿道)の壁の構造と内腔上皮の特徴を説明できる					【授業単元】 後期学習内容の整理 【到達目標】 ・後期の学習内容を整理/確認して最終試験に備える			
5 ・ 6	【授業単元】 泌尿器系 腎臓(尿産生装置)と尿管系(尿路) 【到達目標】 ・腎臓の位置と基本構造、尿産生の仕組みの概要を理解する ・尿産生装置(ネフロンと集合管)の構造と機能を理解する ・排尿路(腎杯、腎盂、尿管、膀胱、尿道)の壁の構造と内腔上皮の特徴を説明できる				13 ・ 14	【授業単元】 自律神経系 ・交感神経系 ・副交感神経系 【到達目標】 ・交感ニューロンと副交感ニューロンの局在部位と線維走行の違いを説明できる ・交感神経節と副交感神経節の局在を説明できる ・自律神経系における知覚ニューロンの求心路を説明できる			
	【授業単元】 循環器系 血液の循環路 心臓の構造と機能 【到達目標】 ・血液の循環路(大循環と小循環)を説明できる ・心臓の基本構造と心拍動の制御機構の概要がわかる ・刺激伝導系の心筋細胞の形態的特徴と走行を説明できる ・主要動脈の走行を説明できる					【授業単元】 後期学習内容の整理 【到達目標】 ・後期の学習内容を整理/確認して最終試験に備える			
	【授業単元】 循環器系 血液の循環路 心臓の構造と機能 【到達目標】 ・血液の循環路(大循環と小循環)を説明できる ・心臓の基本構造と心拍動の制御機構の概要がわかる ・刺激伝導系の心筋細胞の形態的特徴と走行を説明できる ・主要動脈の走行を説明できる					【授業単元】 後期学習内容の整理 【到達目標】 ・後期の学習内容を整理/確認して最終試験に備える			
7 ・ 8	中テスト 試験の解答と解説				15	定期試験 【到達目標】 総合判定で合格するに足る得点を定期試験で獲得する			
	【授業単元】 循環器系 静脈系の分布と血液還流機構 大静脈系、奇静脈系、門脈系の区別 静脈系とリンパ系の関係 胎児の血液循環路 【到達目標】 ・静脈系の分布と血液還流の仕組みを説明できる ・大静脈系、奇静脈系、門脈系の血液流路の特徴を説明できる ・胎児期特有の血液循環路を説明できる ・リンパ系と血液系の関係を説明できる					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、小・中テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行います。 毎回授業後に行う小テストは各回5点満点、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とし、その合計(80点)の1/2の点数を小・中テストの合計点とします。またその数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとします。			
	【履修に当たっての心構え・留意点】 この授業は諸君が事前に参考図書と配布資料に目を通し、学習していただくことを前提にしています。学習中に生じた疑問や不明点については授業中に遠慮なく発言し、その授業の中で解決するようにして学習効率を高めましょう。					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、小・中テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行います。 毎回授業後に行う小テストは各回5点満点、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とし、その合計(80点)の1/2の点数を小・中テストの合計点とします。またその数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとします。			

授業概要

科目名	生理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
正常な人体の機能を理解し、疾患や障害、作業療法評価・プログラムを解釈する基盤を形成する。									
【学習内容】									
東京福祉専門学校で16年教員をする傍ら、身体障害領域での作業療法を実施してきた教員が作業療法士として身につけるべき生理学の知識を教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学【生理学(第6版)】医学書院					「解剖学」と連動した授業の組み立てになっているため、両科目を意識しながら受講すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2 (4/15)	【授業単元】 「オリエンテーション 生理学入門」(教科書P1-5) ・生理学とは何か?体験的に学ぶ ・人体の大きな機能と構造を学ぶ、医学用語理解の重要性を知る 【到達目標】 ・生理学という学問の位置づけを理解する ・基礎医学科目が今後どのように繋がるのかを理解する				17・18 (6/17)	【授業単元】 「神経系」について⑤(教科書P26-60) ・末梢神経、神経の興奮伝導について学ぶ 【到達目標】 ・末梢神経、神経の興奮伝導について理解する			
3・4 (4/22)	【授業単元】 「生命現象、細胞について」(教科書P5-25) ・身体のような機能の働きによって生命が維持されているのかを学ぶ。 ・身体の基本単位である細胞の機能と構造について理解する 【到達目標】 ・生命現象、細胞、組織と言った普段は意識しないミクロな構造と機能を理解する				19・20 (6/24)	【授業単元】 「神経系」について⑥(教科書P26-60) ・高次脳機能について学ぶ 【到達目標】 ・高次脳機能について理解する			
5・6 (4/29)	【授業単元】 「筋と骨」について①(P91-79) ・骨の機能、一部骨折といった外傷についても触れてリハビリテーションとの関連を学ぶ ・筋の基本的構造について 【到達目標】 ・骨、筋の基本的構造と機能を理解する ・リハビリテーションとの関連を理解する				21・22 (7/1)	【授業単元】 「神経系」について⑦(教科書P26-60) ・これまで学んだ神経系の知識を用いて、「手を伸ばして物を握む」動作の解説を作成する 【到達目標】 ・正しい知識を用いて、解説作りができる			
7・8 (5/13)	【授業単元】 「筋と骨」について②(P91-79) ・筋の機能、一部痛みについても触れてリハビリテーションとの関連を学ぶ 【到達目標】 ・骨、筋の基本的構造と機能を理解する ・リハビリテーションとの関連を理解する				23・24 (7/8)	【授業単元】 「神経系」について⑧(教科書P26-60) ・これまで学んだ神経系の知識を用いて、「手を伸ばして物を握む」動作の解説を作成する 【到達目標】 ・正しい知識を用いて、解説作りができる			
9・10 (5/20)	【授業単元】 「神経系」について①(教科書P26-60) ・中枢神経、末梢神経の機能的位置づけを理解できる ・運動、感覚、上行、下行など用語が意味することを理解できる 【到達目標】 ・おおまかな神経の機能と構造が理解できる				25・26 (7/15)	【授業単元】 「感覚」について①(教科書P81-96) ・体性感覚の機能について学ぶ ・特殊感覚の機能について学ぶ 【到達目標】 ・体性感覚の機能について理解できる ・特殊感覚の機能について理解できる			
11・12 (5/27)	【授業単元】 「神経系」について②(教科書P26-60) 中枢神経の運動神経、感覚神経について学ぶ 【到達目標】 ・髄体路の経路と機能について理解できる ・感覚伝導路の経路と機能について理解できる				27・28 (7/22)	【授業単元】 「感覚」について②(教科書P81-96) ・体性感覚の機能について学ぶ ・特殊感覚の機能について学ぶ 【到達目標】 ・体性感覚の機能について理解できる ・特殊感覚の機能について理解できる			
13・14 (6/3)	【授業単元】 「神経系」について③(教科書P26-60) ・小脳、髄体外路系について学ぶ 【到達目標】 ・小脳、髄体外路系の機能について理解できる				29・30 (7/29)	【授業単元】 定期試験、前期の振り返り 【到達目標】 前期の習得度を確認し、今後の学習に役立てることができる。			
13・14 (6/3)	【授業単元】 「神経系」について④(教科書P26-60) ・脊髄の機能構造と脊髄反射 ・中テスト(第1-14コマまでの内容) 【到達目標】 ・脊髄の機能構造と脊髄反射				科目の評価は、定期試験60%、小・中テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行います。 毎回授業後に行う小テストは各回5点満点、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とし、その合計(80点)の1/2の点数を小・中テストの合計点とします。またその数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとします。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
この授業は諸君が事前に参考図書と配布資料に目を通し、予習してくることを前提にしています。予習中に生じた疑問や不明点については授業中に遠慮なく発言し、その授業の中で解決するようにして学習効率を高めましょう。									

授業概要

科目名	生理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
正常な人体の機能を理解し、疾患や障害、作業療法評価・プログラムを解釈する基盤を形成する。									
【学習内容】									
東京福祉専門学校で16年教員をする傍ら、身体障害領域での作業療法を実施してきた教員が作業療法士として身につけるべき生理学の知識を教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学【生理学(第6版)】医学書院					「解剖学」と運動した授業の組み立てになっているため、両科目を意識しながら受講すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 (9/10)	【授業単元】 「消化と吸収」について(教科書P170-182) ・消化器官の機能と身体への取り込みを学ぶ				9 (11/6)	【授業単元】 「血液」について(教科書P97-112) ・血液の種類、役割を学ぶ			
	【到達目標】 ・消化器官の機能を理解できる					【到達目標】 ・血液の種類、役割を理解する			
2 (9/18)	【授業単元】 「栄養と代謝」について(教科書P183-190) ・消化吸収された栄養素が体内でどのように活かされるのかを学ぶ				10 (11/13)	【授業単元】 「内分泌」について(教科書P191-206) ・内分泌の役割と機能を学ぶ			
	【到達目標】 ・消化吸収された栄養素の働きを理解する					【到達目標】 ・内分泌の役割と機能を理解する			
3 (9/25)	【授業単元】 「呼吸とガスの運搬」について①(教科書P143-155) ・呼吸の基本的な仕組みを学ぶ ・酸素、二酸化炭素が体内でどのように働き、調整されるのかを学ぶ				11 (11/27)	【授業単元】 「生殖と発生・成長と老化」について(教科書P207-223) ・人体の発生から後退までの人体の変化を学ぶ			
	【到達目標】 ・呼吸とガス交換の仕組みや役割を理解する					【到達目標】 ・人体の発生から後退までの人体の変化を理解する			
4 (10/2)	【授業単元】 「呼吸とガスの運搬」について②(教科書P143-155) ・呼吸の基本的な仕組みを学ぶ ・酸素、二酸化炭素が体内でどのように働き、調整されるのかを学ぶ				12 (12/18)	【授業単元】 総復習① ・前期の内容を中心とした総復習			
	【到達目標】 ・呼吸とガス交換の仕組みや役割を理解する					【到達目標】 ・前期の内容を想起し、後期の学びと繋げることができる			
5 (10/9)	【授業単元】 「尿の生成と排泄」①(教科書P158-168) ・腎機能について学ぶ ・尿の生成と排泄の仕組みを学ぶ				13 (1/15)	【授業単元】 総復習② ・後期の内容を中心とした総復習			
	【到達目標】 ・腎機能について理解する ・尿の生成と排泄の仕組みを理解する					【到達目標】 ・後期の内容理解をより定着することができる			
6 (10/16)	【授業単元】 「尿の生成と排泄」②(教科書P158-168) ・腎機能について学ぶ ・尿の生成と排泄の仕組みを学ぶ				14 (1/22)	【授業単元】 総復習③ ・人体機能とは何か、生理学で学んだことが今後どのように活用されるかを整理する			
	【到達目標】 ・腎機能について理解する ・尿の生成と排泄の仕組みを理解する					【到達目標】 ・人体機能、構造の全体像を捉えることができ、リハビリテーションとの関連を理解できる			
7 (10/23)	【授業単元】 「心臓と循環」について①(教科書P113-141) ・心臓および血管の機能構造を学ぶ ・体循環、肺循環を学ぶ				15 (1/29)	【授業単元】 定期試験、解説			
	【到達目標】 ・心臓および血管の機能構造を理解する ・体循環、肺循環を理解する					【到達目標】 後期の習得度を確認し、今後の学習に役立てることができる。			
8 (10/30)	【授業単元】 「心臓と循環」について②(教科書P113-141) ・心臓および血管の機能構造を学ぶ ・体循環、肺循環を学ぶ				科目の評価は、定期試験60%、小・中テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行います。 毎回授業後に行う小テストは各回5点満点、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とし、その合計(80点)の1/2の点数を小・中テストの合計点とします。またその数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとします。				
	【到達目標】 ・心臓および血管の機能構造を理解する ・体循環、肺循環を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
この授業は諸君が事前に参考図書と配布資料に目を通し、予習して頂くことを前提にしています。予習中に生じた疑問や不明点については授業中に遠慮なく発言し、その授業の中で解決するようにして学習効率を高めましょう。									

授 業 概 要

科目名	運動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	阿部亘、内海陽太		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
人体の動きに関して基本的な知識を習得し、臨床および国家試験でのポイントを理解できるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
阿部亘：回復期の病院に8年勤務。主に運動器(骨折)や脳血管障害(脳梗塞、神経難病)が専門。今後の実習や就職後における臨床につながるような内容を教示していく。 内海陽太：回復期病院に5年勤務。外来リハビリも担当しており地域に根差した医療を経験。自身が教育を受けた学生時代の経験も含め、学生の目線に立った授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基礎運動学 第7版: 医歯薬出版株式会社					授業で学んだことを日常生活で生かす				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	{授業単元} オリエンテーション、四肢と体幹の運動(概要)					{授業単元} 肢関節の構造と運動、小テスト5点			
	{到達目標} ・運動学の基本用語を説明できる。 ・全身の骨の名前、関節の分類について説明できる。				17・18	{到達目標} 肢関節の構造や関節の動きについて説明できる。			
3・4	{授業単元} 肩関節の構造と運動、小テスト5点					{授業単元} 膝関節の構造と運動、小テスト5点			
	{到達目標} ・肩関節の構造や関節の動きについて説明できる。				19・20	{到達目標} 膝関節の構造や関節の動きについて説明できる。			
5・6	{授業単元} 肘関節の構造と運動、小テスト5点					{授業単元} 足関節の構造と運動、小テスト5点			
	{到達目標} 肘関節の構造や関節の動きについて説明できる。				21・22	{到達目標} 足関節の構造や関節の動きについて説明できる。			
7・8	{授業単元} 手関節の構造と運動、小テスト5点					{授業単元} 生体力学の基礎、小テスト5点			
	{到達目標} 手関節の構造や関節の動きについて説明できる。				23・24	{到達目標} 生体力学の基礎について理解する。			
9・10	{授業単元} 体幹の構造と運動、小テスト5点					{授業単元} 生体力学の基礎、小テスト5点			
	{到達目標} 体幹の構造や関節の動きについて説明できる。				25・26	{到達目標} 生体力学の基礎について理解し、問題が解ける。			
11・12	{授業単元} 体幹の構造と運動、小テスト5点					{授業単元} 後半の復習、小テスト5点			
	{到達目標} 体幹の構造や関節の動きについて説明できる。				27・28	{到達目標} 後半の学習内容を復習する。			
13・14	{授業単元} 前半の復習、小テスト5点					{授業単元} 復習、定期試験60点			
	{到達目標} 前半の学習内容を復習する。				29・30	{到達目標} 全体の学習内容を復習する。			
15・16	{授業単元} 中テスト20点、体幹の構造と運動				{成績評価の方法と基準}				
	{到達目標} 体幹の構造や関節の動きについて説明できる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(16回目の授業で実施)は20点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
{履修に当たっての心構え・留意点}									
・授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。 ・小テストは毎授業の最初に実施する。									

授 業 概 要

科目名	運動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	阿部 亘、内海陽太		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人体の身体運動について学び、分析することができる。正常な運動について説明ができる。動作分析の視点を身に付けることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
阿部 亘：回復期の病院に8年勤務。主に運動器(骨折)や脳血管障害(脳梗塞、神経難病)が専門。今後の実習や就職後における臨床につながるような内容を指示していく。 内海陽太：回復期病院に5年勤務。外来リハビリも担当しており地域に根差した医療を経験。自身が教育を受けた学生時代の経験も含め、学生の日糧に立った授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基礎運動学 第7版:医歯薬出版株式会社、動作分析臨床活用講座:メディカルビュー社、動作練習臨床活用講座:メディカルビュー社					授業で学んだ内容に日常生活に生かす				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 運動学習				9	【授業単元】 起立、小テスト5点			
	【到達目標】 運動学習の概要を理解する					【到達目標】 起立動作の基本について理解し、適切な分析ができる			
2	【授業単元】 運動学習、小テスト5点				10	【授業単元】 起立、小テスト5点			
	【到達目標】 運動学習と脳機能について理解する					【到達目標】 起立動作の基本について理解し、適切な分析ができる			
3	【授業単元】 姿勢、小テスト5点				11	【授業単元】 歩行、小テスト5点			
	【到達目標】 重心・姿勢の基本について理解し観察、分析に繋げることができる					【到達目標】 歩行動作の基本について理解し、適切な分析ができる			
4	【授業単元】 姿勢、小テスト5点				12	【授業単元】 歩行、小テスト5点			
	【到達目標】 重心・姿勢の基本について理解し観察、分析に繋げることができる					【到達目標】 起居動作の基本について理解し、適切な分析ができる			
5	【授業単元】 寝返り、小テスト5点				13	【授業単元】 作業、小テスト5点			
	【到達目標】 寝返り動作の基本について理解し、適切な分析ができる					【到達目標】 生活で行う作業について理解し、適切な分析ができる			
6	【授業単元】 寝返り、小テスト5点				14	【授業単元】 作業、全体の復習、小テスト5点			
	【到達目標】 寝返り動作の基本について理解し、適切な分析ができる					【到達目標】 ・生活で行う作業について理解し、適切な分析ができる ・全体の内容を復習し理解できる			
7	【授業単元】 起居、小テスト5点				15	【授業単元】 復習、定期試験 60点			
	【到達目標】 起居動作の基本について理解し、適切な分析ができる					【到達目標】			
8	【授業単元】 起居、中テスト 20点				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 起居動作の基本について理解し、適切な分析ができる				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は20点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。 ・小テストは毎授業の最初に実施する。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
解剖学、生理学の知識をつなげ、人間の身体の構造と機能について説明できる。特に骨・筋・神経を中心とした構造と機能について、循環器系、消化器系、泌尿器系、呼吸器系、中枢神経系等の働きについて理解・説明できることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験しております。また、通信制の大学にて教育学を履修し、専任教員養成研修受講済み。現在は週に1度訪問リハビリで臨床を継続。双方向のやりとりを通して、解剖学や生理学の授業で学んだ内容を振り返り理解を深めていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各回で使用する参考図書は異なるため、使用した参考図書がある場合は各回で案内を行う。					必要が生じた場合には、各回で適宜案内を行う。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション・運動方向			9	【授業単元】 脳の構造と働き①				
	【到達目標】 授業の概要や進め方を理解することができる。 運動方向について理解することができる。				【到達目標】 脳の構造と働きについて述べることができる。				
2	【授業単元】 骨①			10	【授業単元】 脳の構造と働き②				
	【到達目標】 上肢の骨を述べることができる。				【到達目標】 脳の構造と働きについて述べることができる。				
3	【授業単元】 骨②			11	【授業単元】 内臓の構造と働き①				
	【到達目標】 下肢の骨を述べることができる。				【到達目標】 各内臓の構造と働きについて述べることができる。				
4	【授業単元】 骨③			12	【授業単元】 内臓の構造と働き②				
	【到達目標】 体幹の骨を述べることができる。				【到達目標】 各内臓の構造と働きについて述べることができる。				
5	【授業単元】 筋①			13	【授業単元】 解剖・生理学復習①				
	【到達目標】 上肢の筋を述べることができる。				【到達目標】 解剖と生理学に関する振り返りを行い、理解を深めることができる。				
6	【授業単元】 筋②			14	【授業単元】 解剖・生理学復習②				
	【到達目標】 下肢の筋を述べることができる。				【到達目標】 解剖と生理学に関する振り返りを行い、理解を深めることができる。				
7	【授業単元】 筋③			15	【授業単元】 定期テスト 振り返り				
	【到達目標】 体幹の筋を述べることができる。				【到達目標】 試験にて学習の理解度を把握することができる。 振り返りを通して理解が不十分な点を理解することができる。				
8	【授業単元】 前半のまとめ・振り返り 中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60％、毎回授業の小テスト等40％の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験もしくは口頭試験で評価する。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の進捗や理解度、集団の学習状況によって適宜内容を変更することがあるため、その場合は適宜案内を行う。 主体性を持って、授業に参加しましょう。									

授業概要

科目名	リハビリテーション概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
リハビリテーションの理念、歴史、目的をはじめ医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーションを総合的に理解することにより、リハビリテーションにおける作業療法の位置について説明できるようになる。国際障害分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF)の思想、個人モデルと社会モデルについて理解する。リハビリテーションの過程と諸相について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域、教育現場で約14年間経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行っています。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論 改訂第4版					予習復習をしっかりと行い、知識の定着を図りましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 リハビリテーションの概念・理念・定義とは				9	【授業単元】 リハビリテーション専門職とその役割について チームアプローチについて			
	【到達目標】 リハビリテーションとはなにか。その概念・理念・定義について考え理解することができる					【到達目標】 リハビリテーション専門職とその役割について理解することができる チームアプローチについて学び、その重要性について自身の考えを持つことができる			
2	【授業単元】 健康と障害の概念と分類について				10	【授業単元】 医療リハビリテーションの実践過程について①			
	【到達目標】 健康と障害の概念と分類について理解することができる					【到達目標】 医療リハビリテーションの実践過程について知ることができる 上記における作業療法士の具体的な働きについてイメージを持つことができる			
3	【授業単元】 病の心理について				11	【授業単元】 医療リハビリテーションの実践過程について②			
	【到達目標】 疾患を持つ方の心理について知り、作業療法士に必要な対象者との関わり方・スキルについて考えることができる					【到達目標】 医療リハビリテーションの実践過程について知ることができる 上記における作業療法士の具体的な働きについてイメージを持つことができる			
4	【授業単元】 作業療法とは①				12	【授業単元】 地域リハビリテーションの実践過程について			
	【到達目標】 作業療法の目的、効果、人が人らしく生きる、といったことについて考え、自身なりの考えを持つことができる					【到達目標】 地域リハビリテーションの実践過程について知ることができる 上記における作業療法士の具体的な働きについてイメージを持つことができる			
5	【授業単元】 作業療法とは②				13	【授業単元】 精神科リハビリテーションの実践過程について			
	【到達目標】 作業療法の目的、効果、人が人らしく生きる、といったことについて考え、自身なりの考えを持つことができる					【到達目標】 精神科リハビリテーションの実践過程について知ることができる 上記における作業療法士の具体的な働きについてイメージを持つことができる			
6	【授業単元】 リハビリテーションの過程について				14	【授業単元】 発達障害リハビリテーションの実践過程について			
	【到達目標】 リハビリテーションは、評価・計画・治療・再評価のPDCAサイクルに基づいて流れていく。その一連の流れについて理解し、作業療法過程についてイメージすることができる					【到達目標】 発達障害リハビリテーションの実践過程について知ることができる 上記における作業療法士の具体的な働きについてイメージを持つことができる			
7	【授業単元】 リハビリテーションの諸段階について				15	【授業単元】 定期テスト実施と解説			
	【到達目標】 リハビリテーションは、発症から入院、退院、その後の在宅生活のフォローを行う。その段階に応じた知識を理解し、作業療法の実践についてイメージすることができる					【到達目標】 定期テスト実施と解説			
8	【授業単元】 中テスト実施と解説				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小・中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験またはTeamsを利用して行う。				
	【到達目標】 中テスト実施と解説により、自己の理解を確認できる これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
得た知識からリハビリテーションとは何か、作業療法士とは何かについて、自身の考えを持ち、将来の作業療法士として必要な能力を考え、身につけることができるようになりましょう。									

授業概要

科目名	基礎作業学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大橋航祐		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業の概念を理解することで、作業療法が作業に基づく実践であること、作業の持つ特性について多角的に説明する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として精神科病院、発達児童の放課後等デイサービス、訪問リハビリを経験。教員が専門とする描画を作業として扱い、同一作業を通じて多角的な作業の特性を体験してもらい、学習の機会をつくる。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:作業学 改訂第3版 (作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト). メジカルビュー社, 2021					各自復習を推奨します				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 私の作業				9	【授業単元】 作業の持つ特性/遂行要素～役割～			
	【到達目標】 作業学への興味を持ち、理解することができる					【到達目標】 作業の役割としての側面について考え、知ることができる			
2	【授業単元】 作業療法における作業				10	【授業単元】 作業の持つ特性/遂行要素～表現～			
	【到達目標】 作業療法における作業について、作業の持つ多面性について知ることができる					【到達目標】 作業の表現としての側面について考え、知ることができる			
3	【授業単元】 作業の持つ特性/遂行要素～分析～				11	【授業単元】 作業の持つ特性/遂行要素～管理～			
	【到達目標】 作業の分析としてのとしての側面について考え、知ることができる					【到達目標】 作業の管理としての側面について考え、知ることができる			
4	【授業単元】 作業の持つ特性/遂行要素～感情～				12	【授業単元】 作業の持つ特性/遂行要素～脳機能～			
	【到達目標】 作業の感情としてのとしての側面について考え、知ることができる(感覚/工程)					【到達目標】 作業の脳の働きについて考え、知ることができる			
5	【授業単元】 作業の持つ特性/遂行要素～コミュニケーション～				13	【授業単元】 作業分析について			
	【到達目標】 作業のコミュニケーションとしての側面について考え、知ることができる					【到達目標】 作業分析の目的/種類について理解することができる			
6	【授業単元】 作業の持つ特性/遂行要素～身体～				14	【授業単元】 作業・作業活動もちいる			
	【到達目標】 作業の機能としてのとしての側面について考え、知ることができる					【到達目標】 作業を扱うための多角的な視点もつことができる			
7	【授業単元】 作業の持つ特性/遂行要素～認知～				15	【授業単元】 期末テスト			
	【到達目標】 作業の認知としての側面について考え、知ることができる					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト及び授業への参加態度の合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表またはレポートまたは筆記試験で行う。 ・毎回の小テスト及び確認テストは各回5点満点とし、そのうち第8回を15点として、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる 自身の理解度、習得度を把握することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
体験に積極的に参加し、実感を知識に変えてください									

授業概要

科目名	基礎作業学実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大橋航祐		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	2 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
・作業療法の治療手段であり目的でもある作業活動を行うことを通じて、その基礎的な知識と技術を習得する ・作業活動の実際において協働や参加の意義を感得し表現する ・作業・活動分析を実際に行うことができる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として精神科病院、発達児童の放課後等デイサービス、訪問リハビリを経験。作業の体験・分析を通じ、作業の持つ特性と治療への活用について伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:作業学 改訂第3版(作業療法学 ゴールド・マスタ―・テキスト), メジカルビュー社, 2021					各回における作業課題を作業分析し実施手順、作業特性を理解できるように自己学習をする				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 9/17	【授業単元】 作業(手工芸)とは/塗り絵 【到達目標】 手工芸の種類、意味などについて理解する				9 11/19	【授業単元】 折り紙 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
2 9/24	【授業単元】 陶芸① 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する				10 11/26	【授業単元】 革細工 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
3 10/1	【授業単元】 ボッチャ 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する				11 12/3	【授業単元】 ポートボール 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
4 10/7 (4コマ)	【授業単元】 図工キット 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する				12 1/14	【授業単元】 凧あげ 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
5 10/14 (2コマ)	【授業単元】 陶芸② 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する				13 1/21	【授業単元】 七宝焼き 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
6 10/22	【授業単元】 キックベース 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する				14 1/28	【授業単元】 デッサン 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
7 10/28 (4コマ)	【授業単元】 美術館&動物園 【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する				15 2/4	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。			
8 11/4 (2コマ)	【授業単元】 中テスト 【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。自身の理解度、習得度を把握することができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 作品作成に時間をかけて欲しいので、余裕のあるスケジュールになっていますが、作品の完成スピードによってはスケジュールを変更するかもしれません。									

授 業 概 要

科目名	作業療法理論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法の歴史を紐解きながら現代にまで繋がる理論を学び、作業療法というリハビリテーションの構造を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として身体障害分野の急性期・回復期病院、訪問リハビリに従事。大学院では作業療法教育に関する研究を実施した。作業療法の歴史や理論について授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
作業療法概論 第4版(医学書院)									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 (4/15)	【授業単元】 授業オリエンテーション 作業療法の意味、作業療法の歴史と原理 (教科書P3-26)				9 (6/17)	【授業単元】 発達障害の作業療法(P196-211)			
	【到達目標】 作業療法の歴史発展から原理原則を学ぶ。					【到達目標】 発達障害に特有の作業療法のアプローチを学ぶ。			
2 (4/22)	【授業単元】 作業療法に関する予備、作業療法の実践現場 (教科書P27-50)				10 (6/24)	【授業単元】 発達障害の作業療法(P196-211)			
	【到達目標】 作業療法の基本を学ぶ。					【到達目標】 発達障害に特有の作業療法のアプローチを学ぶ。			
3 (4/29)	【授業単元】 作業療法の仕組み、評価と問題点の抽出、プログラム立案とフォローアップ(P145-161)				11 (7/1)	【授業単元】 高齢期障害の作業療法(P212-228)			
	【到達目標】 作業療法の治療が組み立てられる課程を理解する。					【到達目標】 高齢期障害に対する作業療法の方法と実践を考察。			
4 (5/13)	【授業単元】 臨床思考過程と作業療法士の自己活用(P162-167)				12 (7/8)	【授業単元】 作業療法士の教育、研究とエビデンス、協会の役割(P97-130)			
	【到達目標】 作業療法士の思考過程を理解する。					【到達目標】 作業療法士のカリキュラムや治療の根拠から学ぶ意義を理解する。			
5 (5/20)	【授業単元】 作業の分析、作業の治療的応用、作業療法の理論 (教科書P51-83)				13 (7/15)	【授業単元】 作業療法の記録と報告(P258-269)			
	【到達目標】 作業療法の治療概念を理解する。					【到達目標】 現場で必要な記録と報告について学ぶ。			
6 (5/27)	【授業単元】 身体障害の作業療法(P169-181)				14 (7/22)	【授業単元】 社会保障制度、作業療法の管理運営(P231-257)			
	【到達目標】 身体障害に対する作業療法のアプローチを理解する。					【到達目標】 作業療法対象者の社会的サービス、作業療法における諸管理を学ぶ。			
7 (6/3)	【授業単元】 身体障害の作業療法(P169-181)				15 (7/29)	【授業単元】 定期試験 まとめ			
	【到達目標】 身体障害に対する作業療法のアプローチを理解する。					【到達目標】 定期試験の合格			
8 (6/10)	【授業単元】 精神障害の作業療法(P182-195)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・小テストは授業ごと行う ・中テストは8回目(6/10)に実施する 試験内容は単元に即して担当教員が決める。				
	【到達目標】 精神障害に対する作業療法の方法と実践を考察。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。									

授 業 概 要

科目名	地域作業療法学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	細田 明		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域に於ける作業療法の基本理念、その多岐にわたる潮流を学ぶことにより、多様な人々の生活と社会の力動性を理解した上で対象者に関与できる能力を身につける。障害福祉サービス・介護保険・地域医療に関する最新の知見と機構について理解する。									
【学習内容】									
老年期作業療法を中心に病院・クリニック・通所リハ・老人ホーム等実績の臨床21年目の当校夜間課程卒業生である教員が、臨床に於ける地域作業療法学の価値や倫理を学び、対人援助職に大切な視点を学習する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ゴールド・マスター・テキスト地域作業療法学／メジカルビュー社 適宜書籍を紹介する									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 地域作業療法の基盤と背景を学習する(1)				9	【授業単元】 認知症への施策(2)			
	【到達目標】 地域作業療法学を理解するうえで、社会福祉という用語が多義的な意味合いを含む言葉が多くなっている。また類似の用語も使用されているようになってきている。まずこれらの言葉を整理していく。我が国の、それぞれの時代に於ける社会福祉の背景や動向を理解する。					【到達目標】 認知症施策推進大綱(新オレンジプラン)の概要から、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて理解する			
2	【授業単元】 地域作業療法の基盤と背景を学習する(2) 小テスト				10	【授業単元】 様々な領域で活躍する先輩作業療法士(1)			
	【到達目標】 地域作業療法学を理解するうえで、社会福祉という用語が多義的な意味合いを含む言葉が多くなっている。また類似の用語も使用されているようになってきている。まずこれらの言葉を整理していく。我が国の、それぞれの時代に於ける社会福祉の背景や動向を理解する。					【到達目標】 高齢期・地域・海外・災害支援それぞれで活躍する卒業生作業療法士の生の声から、なりたい自分の作業療法士像を具体的にイメージする			
3	【授業単元】 地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携を学習する(1) 小テスト				11	【授業単元】 様々な領域で活躍する先輩作業療法士(2) 小テスト			
	【到達目標】 地域作業療法を支えている制度や施策を知り、社会の流れを背景にした作業療法の実践領域を学ぶ					【到達目標】 高齢期・地域・海外・災害支援それぞれで活躍する卒業生作業療法士の生の声から、なりたい自分の作業療法士像を具体的にイメージする			
4	【授業単元】 地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携を学習する(2) 小テスト				12	【授業単元】 地域作業療法の実践事例を学習する(1) 小テスト			
	【到達目標】 地域作業療法の実践課程をもとに社会生活支援と連携について理解する					【到達目標】 医療介護保険の各領域、身体機能・精神機能などの作業療法士の活動内容と役割について学び、地域との連携について理解する			
5	【授業単元】 地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携を学習する(3) 小テスト				13	【授業単元】 地域作業療法の実践事例を学習する(2) 小テスト			
	【到達目標】 地域作業療法にかかわる多職種を知り、連携と協働の重要性を理解する					【到達目標】 医療介護保険の各領域、身体機能・精神機能などの作業療法士の活動内容と役割について学び、地域との連携について理解する			
6	【授業単元】 地域作業療法の実践を学習する(1) 小テスト				14	【授業単元】 地域作業療法の実践事例を学習する(3) 小テスト			
	【到達目標】 ICFから障害を捉える。またノーマライゼーションから影響された我が国の施策について考える(バリアフリー新法を現地で実際に確認する)					【到達目標】 医療介護保険の各領域、身体機能・精神機能などの作業療法士の活動内容と役割について学び、地域との連携について理解する			
7	【授業単元】 地域作業療法の実践を学習する(2) 小テスト				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 ICFから障害を捉える。またノーマライゼーションから影響された我が国の施策について考える(バリアフリー新法を現地で実際に確認する)					【到達目標】			
8	【授業単元】 認知症への施策(1) テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 超高齢化が進む現在、住み慣れた地域で最後まで安心して暮らすために我々はどう取り組むべきかを理解する				講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 小テスト:12コマ = 40点 定期テスト = 60点				
【履修に当たっての心構え・留意点】					※中テストは無し				
初めての専門用語が多いですが都度しっかり理解しましょう。					(計 100点満点)				

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅰ（訪問通所）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	1 単位	総時間数	45 時間
【授業を通じての到達目標】									
訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションを利用する対象者を通して、障害を抱えながら地域で生活することの実際やそれに対する作業療法のあり方について知ることができる。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
臨床実習Ⅰ 要項 各教科書					実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。				
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。									
・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣（情意領域） 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など）									
・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考（認知・精神運動領域） 基本的知識の習得									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとくむことが求められる。					実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。				

授業概要

科目名	実習準備教育Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	徳備 夏子		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床実習Ⅰでより効果的な学習ができるよう、必要な知識や技術の事前学習を実施する。また、実習終了後に自身の経験の振り返りと他者との共有を行うことによって、学習した内容と今後の課題を整理することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験をしております。また、通信制の大学にて教育学を履修し、専任教員養成研修受講済み。本講義では、双方向のやり取りを通して、実習の心構えや地域での作業療法士像の構築を図っていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
臨床実習Ⅰ 要綱					地域の作業療法や実習についての既習事項を適宜復習してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 実習オリエンテーション				9	【授業単元】 目標設定・発表			
	【到達目標】 実習における目標や注意事項などについて理解することができる。					【到達目標】 実習における自身の目標を立てることができる。			
2	【授業単元】 地域における作業療法と訪問通所について				10	【授業単元】 実習後オリエンテーション			
	【到達目標】 地域での作業療法の役割と訪問・通所について理解することができる。					【到達目標】 実習後の内容について理解することができる。			
3	【授業単元】 実習地調べ				11	【授業単元】 発表準備①			
	【到達目標】 自身が実習を行わせていただく実習地について調べ、効果的な実習につなげることができる。					【到達目標】 実習における学びについて、まとめることができる。			
4	【授業単元】 ディリーノート				12	【授業単元】 発表準備②			
	【到達目標】 ディリーノートの書き方について理解することができる。					【到達目標】 実習における学びについて、まとめることができる。			
5	【授業単元】 シミュレーションワーク①				13	【授業単元】 発表準備③			
	【到達目標】 実習で予測される事項についてシミュレーションを通して、効果的な行動を理解することができる。					【到達目標】 実習における学びについて、まとめることができる。			
6	【授業単元】 シミュレーションワーク②				14	【授業単元】 発表準備④			
	【到達目標】 実習で予測される事項についてシミュレーションを通して、効果的な行動を理解することができる。					【到達目標】 実習における学びについて、まとめることができる。			
7	【授業単元】 KYT①				15	【授業単元】 発表・レポート			
	【到達目標】 実習で予測されるリスクについて知り、適切にリスク管理を行うことができる。					【到達目標】 実習における学びについてアウトプットすることができる。			
8	【授業単元】 KYT②				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、AからFの6段階で評価を行う。 評価の配点については実習前の課題40点分と実習後の発表60点分にて評定を行う。				
	【到達目標】 実習で予測されるリスクについて知り、適切にリスク管理を行うことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習準備教育に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。授業の進捗や理解度、集団の学習状況によって適宜内容を変更することがあるため、その場合は適宜案内を行う。									

授 業 概 要

科目名	作業療法特定研究Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	泉良太		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
疑問に対して調べる力、複数情報を要約して理解する力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は主に身体障害領域にて作業療法を実施するとともに、大学院では作業療法士の職業観や学生指導に関する研究をしてきた。日進月歩で発展する作業療法を持続的に学び続けるための基盤となる文章読解能力を身につけるべく、文献抄読をする技術を教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 (9/11)	【授業単元】 オリエンテーション(20分) 研究の意義、成果報告の意義				9 (11/6)	【授業単元】 発表会(中テスト)			
	【到達目標】 作業療法分野における研究やその成果を報告する意義を理解し、次回の実習成果発表会に					【到達目標】 自分が調べた内容を整理して他者に伝えることができる。			
2 (9/18)	【授業単元】 3年生実習成果発表会への参加 ※時間割変更の可能性あり				10 (11/13)	【授業単元】 作業療法に纏わる文献を読む。			
	【到達目標】					【到達目標】 作業療法に纏わる専門的な文献を読み、理解し、疑問を持つことができる。			
3 (9/25)	【授業単元】 文献を読む。 文献の読み方、思考の巡らせ方を学ぶ。				11 (11/27)	【授業単元】 作業療法に纏わる文献から疑問を抽出し、調べ学習のテーマを選定する。			
	【到達目標】 文献の読み方の基礎が分かり、実践を試みることができる					【到達目標】 作業療法に纏わる文献から疑問を抽出し、調べ学習のテーマを選定できる。			
4 (10/2)	【授業単元】 文献抄読の実践① 文献を読み、分からない言葉を調べて自分で理解をする。				12 (12/18)	【授業単元】 テーマに基づいて、調べ学習をする。			
	【到達目標】 分からない言葉を調べながら読み進めることができる。					【到達目標】 調べ学習内容をまとめることができる。			
5 (10/9)	【授業単元】 文献抄読の実践② 文献抄読シートの作成 読んだ文献のシェア				13 (1/15)	【授業単元】 テーマに基づいて、調べ学習をする。			
	【到達目標】					【到達目標】 調べ学習内容をまとめることができる。			
6 (10/16)	【授業単元】 身近な気になることをテーマにして調べ物をしてみよう。 文献検索の方法				14 (1/22)	【授業単元】 発表の「予演会」			
	【到達目標】 テーマを決めることができる。 文献検索の方法を知り、実践ができる。					【到達目標】 指摘箇所を修正することができる。			
7 (10/23)	【授業単元】 気になることをテーマについて文献検索をしてみよう。				15 (1/29)	【授業単元】 発表会(定期試験)			
	【到達目標】 調べ作業によって自分の疑問を解消することができる。					【到達目標】 調べた内容をまとめて報告ができる。			
8 (10/30)	【授業単元】 気になることをテーマについて文献検索をしてみよう。 調べた内容をパワーポイントにまとめよう。				【成績評価の方法と基準】 ＜成績判定について＞ 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・小テストは課題作成や授業態度など総合的に採点する ・中テストは第9回の発表会の成果を採点する ・定期試験は第15回の発表会の成果を採点する				
	【到達目標】 調べ作業によって自分の疑問を解消することができる。 発表資料の作成ができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	作業体験Ⅰ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	大橋航祐、田中直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ひとが関わる様々な作業を体験し、作業療法士のアイデンティティを育む。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当する教員は作業療法士の資格を持ち、身体障害・高齢期・精神障害等の様々な臨床経験をしてきた。その経験を基に、作業療法士として必要な作業体験を提供する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業ごとに資料を配布します									
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 授業オリエンテーション			9	【授業単元】 作業体験				
	【到達目標】 授業の受け方を把握し、学習のポイントを理解する。				【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				
2	【授業単元】 作業体験			10	【授業単元】 作業体験				
	【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				
3	【授業単元】 作業体験			11	【授業単元】 作業体験				
	【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				
4	【授業単元】 作業体験			12	【授業単元】 作業体験				
	【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				
5	【授業単元】 作業体験			13	【授業単元】 作業体験の振り返り				
	【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				【到達目標】 作業体験の振り返りを行い、学習内容を整理し、作業療法へ関連づけを行える。				
6	【授業単元】 作業体験			14	【授業単元】 作業体験の振り返り				
	【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				【到達目標】 作業体験の振り返りを行い、学習内容を整理し、作業療法へ関連づけを行える。				
7	【授業単元】 作業体験			15	【授業単元】 定期試験 まとめ				
	【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。				【到達目標】 作業体験の振り返りを行い、学習内容を整理し、作業療法へ関連づけを行える。				
8	【授業単元】 作業体験			【成績評価の方法と基準】 ＜履修の概要＞ ・緑は全体日実施、黄はゼミ日とする。 ・第2-12回は各教員が提供する作業体験を選択して受講する。 ＜成績判定について＞ 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・小テストは各作業体験のレポートにて採点する ・中テストは実施しない ・定期試験は作業体験の発表を採点する					
	【到達目標】 作業体験を通して、作業の意味やその作業を行う人々の価値観を理解する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

【成績評価の方法と基準】

＜履修の概要＞

- ・緑は全体日実施、黄はゼミ日とする。
- ・第2-12回は各教員が提供する作業体験を選択して受講する。

＜成績判定について＞

講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。

授 業 概 要

科目名	幼児の心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	山岸 有里		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
幼稚園教諭として、身につけておくべき、こどもとの接し方と、幼児の日常をイメージできるようになる。1年生で、幼稚園実習を体験した経験を活かして、さらに理解を深め、実践できるスキルを身に付けることを目標とします。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
カウンセラーとして、30年勤務し心理学、カウンセリング、心理検査、心理演習等の科目の講義経験がある。保育園での、入学準備プログラムを5歳児に実施。加えて、プログラム開発を行っている。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・教科書なし ・事前に資料をチームスに提示					自分のノートが教材であり、資料として在籍中の実習や、卒業後も使えるものを作っていくので、随時作成したノートの提出、共有をします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・視野・身体感覚を体験から学び、気づきを言語化する チャイルド・ビジョン体験 幼児の視野(大人より狭い)を作り、教室を歩く。見上げるワークでこどもの視線を体験。 【到達目標】 「視野・身体感覚の差」について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)				9	【授業単元】 ・社会性の発達 「貸して・いいよ」の交渉術 おもちゃの取り合いを演じ、仲裁する先生のベストな一言を探す。 【到達目標】 「社会性の発達」について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)			
2	【授業単元】 ・愛着形成、信頼関係の構築を体験から学び、気づきを言語化する 「安心の基地」ごっこ ペアで片方が不安な子、片方が先生役。物理的な距離感で安心感を試す。 【到達目標】 愛着形成、信頼関係の構築を体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)				10	【授業単元】 ・「気質と個性」を体験から学び、気づきを言語化する 「育てにくい子」体験 大きな音や光に過敏な子の感覚を、身近な道具で再現してみる。 【到達目標】 「気質と個性」について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)			
3	【授業単元】 ・自己中心性と直感的思考を体験から学び、気づきを言語化する 見え方の違い、連想ゲーム 伝言ゲームや、絵を見て言葉だけで伝えることをしながら自分の視野と他者の理解の差を体験 【到達目標】 自己中心性と直感的思考について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)				11	【授業単元】 ・感情のコントロール を体験から学び、気づきを言語化する 「怒りの温度計」 自分の怒りのスイッチを可視化し、子どもへの「アンガーマネジメント」を考える。 【到達目標】 感情のコントロール について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)			
4	【授業単元】 ・非言語コミュニケーションを体験から学び、気づきを言語化する 「ジェスチャー・ゲーム」 言葉が未熟な子が「伝えたいけど伝わらない」もどかしさを体験する。 【到達目標】 非言語コミュニケーションについて体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)				12 7/10	【授業単元】 ・「家族と心理」を体験から学び、気づきを言語化する 「エコマップ作成」 自分を取り巻く環境を大きな紙に描き、子どもの背景にある家族支援を考える。 【到達目標】 「家族と心理」について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)			
5	【授業単元】 ・象徴機能・創造性を体験から学び、気づきを言語化する 「紙1枚で遊ぼう」 紙だけでどれだけ遊びを広げられるか競う(見立て遊び)。 【到達目標】 象徴機能・創造性について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)				13	【授業単元】 ・「道徳性の発達」を体験から学び、気づきを言語化する 「わざと」vs「うっかり」 割れたお皿の事例で、子どもがどう判断するか劇にして考える。 【到達目標】 道徳性の発達 について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)			
6	【授業単元】 ・運動機能と心理的投影 を体験から学び、気づきを言語化する 「利き手じゃない方でお絵描き」 思い通りに手が動かない感覚を味わい、子どもの絵の意図を考える。 【到達目標】 「運動機能と心理的投影」について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)				14	【授業単元】 ・「特別な支援を要する子」を体験から学び、気づきを言語化する 「凸凹体験ワーク」 手袋をしてビーズを通すなど、不器用さや感覚の違いを疑似体験する。 【到達目標】 「特別な支援を要する子」について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)			
7	【授業単元】 第一反抗期・自律性 「全部イヤ!」ロールプレイ 何を聞いても「嫌」と言う子に、どう声をかけるかシミュレーション。 【到達目標】 第一反抗期・自律性 について体感し、気づきをレポートに書いて振り返る。 小テスト: 上記内容を確認(5点)				15	【授業単元】 定期試験(60分)、発表形式とする。 これまでの学びを、どう活かすのかを考えて発表。 【到達目標】 定期試験 60点分 ルーブリック評価として、「学びの言語化ができたか?(自分の言葉で説明できたか?)」 「1回目からの自分の気づきを振り返って、自分の成長を伝える」			
8	【授業単元】 中テスト 定期試験と同じ内容で、評価を行う。 ・学びの言語化ができたか ・気づきを振り返り、成長を実感する 【到達目標】 中テスト: 15点満点。発表形式				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は「発表原稿・プレゼンテーション」評価で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
主体的に学び姿勢。 協働しての学びを中心に行うので、他者の意見を取り入れる意識を持ってください。									

授 業 概 要

科目名	障害児保育	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	新井 忍 木下雅人 大橋 航祐		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 幼児教育における障害児についての考え方を学び、現場で実践できるようになる 2 発達に課題がある児童とのかかわりを考え、現場で生かせるようになる 3 保護者対応や社会資源とのつなげかたなどを知り現場で生かせるようになる									
【学習内容】									
長期にわたり専門学校の講師をし、現在も現役で保育園、幼稚園の指導に当たる教員が、資料を提示しながら、理解を深めていく授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
					発達障害については様々な情報があるので関心を持ってみましょう				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 授業ガイダンス 幼稚園における障害児の現状 【到達目標】 授業の目的を知り、幼稚園での障害児に対する考えを作業療法士と比較して説明できるようになる 幼稚園と関係が深い福祉施設を知る			9	【授業単元】 障害別の関わり① 【到達目標】 障害によるかかわりの工夫について学ぶ				
2	【授業単元】 障害を理解する 【到達目標】 発達障害の特性を知り現場で生かせるようになる			10	障害別の関わり② 【到達目標】 障害によるかかわりの工夫について学ぶ				
3	【授業単元】 子どもの理解と障害児保育 ① 知的発達の遅れ、自閉的傾向 【到達目標】 一人一人を理解するためのポイントを学び個別な計画が立てられるようになる			11	【授業単元】 障害別の関わり③ 【到達目標】 障害によるかかわりの工夫について学ぶ				
4	【授業単元】 子ども理解と障害児保育 ② 落ち着きがない、言葉に配慮、健康 【到達目標】 一人一人を理解するためのポイントを学び個別な計画が立てられるようになる			12	【授業単元】 障害別の関わり④ 【到達目標】 障害によるかかわりの工夫について学ぶ				
5	【授業単元】 個と集団の関係 【到達目標】 園の生活や行事の参加の仕方など、個と集団の関係について自分の意見が述べられるようになる			13	【授業単元】 障害別の関わり⑤ 【到達目標】 障害によるかかわりの工夫について学ぶ				
6	【授業単元】 障害児と保護者 【到達目標】 障害を持つ保護者との関係をよりよくするための方法を学び実践できるようになる			14	【授業単元】 総復習 【到達目標】 障害によるかかわりの工夫について学ぶ				
7	【授業単元】 中間テスト 【到達目標】 ここまでの振り返りを行い、理解を深めることができる			15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 これまでの振り返りを行い、理解を深めることができる				
8	【授業単元】 発達障害と関わり方 【到達目標】 障害を持つ児童との作業療法士としての関わり方を学ぶ			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験にて行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
幼稚園の現場で行われている障害児とのかかわり方を学び実習などで生かせるようにしましょう									

授 業 概 要

科目名	解剖学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野吉郎		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人体の構造をミクロ、マクロの両視点から捉え、作業療法士が修得すべき人体の解剖学的知識を身に着ける									
【学習内容】									
医歯系総合大学で長く解剖学と組織学の教育に携わってきた教員が、作業療法士を志す諸君が修得すべき人体の正常構造と機能について、筋・骨格系(運動器)、神経系、内臓諸器官系にわけてわかりやすく解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学【解剖学(第6版)】医学書院					各回とも、事前に参考図書と配布資料に目を通し、最低でも30分程度は予習してから受講することが望まれる				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション リンパ性組織とリンパ性器官 胎児循環 【到達目標】 ・リンパ性組織・器官を列挙できる ・一次リンパ性器官と二次リンパ性器官を区別できる ・骨髄、胸腺、リンパ節、脾臓、扁桃、虫垂、パイエル板の構造と機能を概説できる			9	【授業単元】 感覚器：外皮(皮膚) 【到達目標】 ・皮膚の構造(表皮、真皮、皮下組織)と皮膚の感覚受容装置を理解する ・角質層(毛、爪)の構造と役割を説明できる ・皮膚腺(汗腺、脂腺、乳腺)の構造の特徴と分泌機構の異同を説明できる				
	【授業単元】 男性生殖器 【到達目標】 ・精子産生装置(精巣)の構造と精子の形成過程を概説できる ・精子の体外に運ぶ精路と附属生殖腺を説明できる ・男性外生殖器の構造と機能を説明できる				【授業単元】 感覚器：視覚器 ・眼球と複眼器 【到達目標】 ・眼球の基本構造と視覚の受容機構、視覚情報の伝導路を理解する ・副眼器(眼瞼、結膜、涙器)の構造と役割を説明できる				
2	【授業単元】 女性生殖器 【到達目標】 ・卵巣、卵管、子宮、膣、外生殖器、附属生殖腺を説明できる ・男女における生殖腺と生殖管(精管、卵管)の分化の異同を理解する ・男女における外生殖器の発生の異同を理解する			10	【授業単元】 感覚器：平衡感覚器 ・外耳、中耳、内耳 【到達目標】 ・平衡感覚器の構造と基本的機能を理解する ・聴覚器の構造とその基本的機能を理解する				
	【授業単元】 泌尿器と生殖器(泌尿生殖器系)の発生 胎児循環 【到達目標】 ・泌尿器と生殖器の発生の流れを対比して学び相互の関連性を理解する ・胎児期の血液循環とその生後変化を学ぶ ・胎児循環の痕跡を示す遺残物を挙げることができる				【授業単元】 顔面と口腔の発生 【到達目標】 ・胎生期における頭部/顔面の形成の仕組みを知る ・口腔と口腔周囲組織の形成の流れと形成異常を理解する				
3	【授業単元】 内分泌系 【到達目標】 ・内分泌器、内分泌組織・細胞を列挙し、それらの局在部位、産生ホルモン、標的器官、組織構造の特徴を学ぶ			11	【授業単元】 歯と歯周組織の発生と組織 【到達目標】 ・歯の発生の仕組みおよび歯の形成・脱落に伴う歯周組織の変化について理解する ・歯の形成と脱落が咀嚼機能だけでなく、顔貌にも影響することを理解する				
	【授業単元】 内分泌系 【到達目標】 ・内分泌器、内分泌組織・細胞を列挙し、それらの局在部位、産生ホルモン、標的器官、組織構造の特徴の概要を説明できるようになる				【授業単元】 学習内容のまとめ 【到達目標】 ・クラス全体での質疑応答を通して、学習内容についての不明点を解消する				
4	【授業単元】 消化管と消化管附属器の発生 呼吸器(気道と肺)の発生 【到達目標】 ・消化管および消化管附属器の発生の仕組みの概要を説明できる ・腸間膜の分布と形成機構			12	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 総合判定で合格するに足る得点を定期試験で獲得する				
	【授業単元】 中テスト 試験問題の解説 【到達目標】 ・中テストで後期前半の履修内容を十分に理解していることを示す				科目の評価は、定期試験60%、小・中テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行います。 毎回授業後に行う小テストは各回5点満点、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とし、その合計(80点)の1/2の点数を小・中テストの合計点とします。またその数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとします。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
この授業は諸君が事前に参考図書と配布資料に目を通し、予習してくることを前提にしています。予習中に生じた疑問や不明点については授業中に遠慮なく発言し、その授業の中で解決するようにして学習効率を高めましょう。									

授 業 概 要

科目名	生理学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
内科学や神経内科学など各種疾患学を理解するために必要な正常な人体の機能の知識を習得する。									
【学習内容】									
東京福祉専門学校で16年教員をする傍ら、身体障害領域での作業療法を実施してきた教員が疾患を理解するために身につけるべき生理学的知識を教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基礎から学ぶ生理学ノート(第3版) 医学書院					内科学や神経内科学と運動した授業の組み立てになっているため、両科目を意識しながら受講すること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 (4/15)	【授業単元】 「循環器疾患に纏わる生理学①」(教科書P136-165) ・循環器疾患の概要 ・心臓及び血管の機能と構造、体循環・肺循環、前負荷・後負荷 【到達目標】 ・心臓及び血管の機能と構造を基に循環器疾患の理解ができる				9 (6/17)	【授業単元】 「高次脳機能障害に纏わる生理学①」(教科書P66) ・ブロードマンの52野、連合野 「泌尿器疾患に纏わる生理学①」(教科書P230-238) ・泌尿器疾患の概要 ・腎機能について 【到達目標】 ・高次脳機能の機能と構造を基に高次脳機能障害を理解できる ・泌尿器の機能と構造を基に泌尿器疾患の理解ができる			
2 (4/22)	【授業単元】 「循環器疾患に纏わる生理学②」(教科書P136-165) ・刺激伝導系、心電図、心音 「脳血管疾患に纏わる生理学①」(教科書P64-70,78-90,156-157) ・脳血管疾患の概要 ・脳血管の構造、血圧について、中枢神経系の機能と構造 【到達目標】 ・刺激伝導系と心電図(不整脈)の関連が理解できる ・脳血管のうち中枢神経系機能と構造を基に脳血管疾患の理解ができる				10 (6/24)	【授業単元】 「高次脳機能障害に纏わる生理学①」(教科書P66) ・ブロードマンの52野、連合野 「泌尿器疾患に纏わる生理学①」(教科書P230-238) ・泌尿器疾患の概要 ・腎機能について 【到達目標】 ・高次脳機能の機能と構造を基に高次脳機能障害を理解できる ・泌尿器の機能と構造を基に泌尿器疾患の理解ができる			
3 (4/29)	【授業単元】 「脳血管疾患に纏わる生理学②」(教科書P91-96,97-101) ・錐体路について ・脊髄と脊髄反射 「呼吸器疾患に纏わる生理学①」(教科書P168-181) ・呼吸器疾患の概要 ・呼吸運動と呼吸の生理学について 【到達目標】 ・錐体路、脊髄反射の機能を基に片麻痺の理解ができる ・呼吸器の機能と構造を基に呼吸器疾患の理解ができる				11 (7/1)	【授業単元】 「認知症に纏わる生理学①」(教科書P75-76) ・認知症概要 ・生理学的変化 ・記憶の回路 「内分泌疾患に纏わる生理学①」(教科書P252-269) ・内分泌腺、下垂体とホルモン、甲状腺ホルモン 【到達目標】 ・認知機能と構造を基に認知症の理解ができる ・内分泌系の機能と構造を基に内分泌疾患の理解ができる			
4 (5/13)	【授業単元】 「脳血管疾患に纏わる生理学②」(教科書P91-96,97-101) ・錐体路について ・脊髄と脊髄反射 「呼吸器疾患に纏わる生理学②」(教科書P168-181) ・呼吸器疾患の概要 ・呼吸運動と呼吸の生理学について 【到達目標】 ・錐体路、脊髄反射の機能を基に片麻痺の理解ができる ・呼吸器の機能と構造を基に呼吸器疾患の理解ができる				12 (7/8)	【授業単元】 「認知症に纏わる生理学①」(教科書P75-76) ・認知症概要 ・生理学的変化 ・記憶の回路 「内分泌疾患に纏わる生理学①」(教科書P252-269) ・副腎とホルモン、膵臓とホルモン、性腺とホルモン 【到達目標】 ・認知機能と構造を基に認知症の理解ができる ・内分泌系の機能と構造を基に内分泌疾患の理解ができる			
5 (5/20)	【授業単元】 「脳血管疾患に纏わる生理学③」(教科書P91-96,97-101) ・錐体外路について 「消化器疾患に纏わる生理学①」(教科書P184-198) ・消化器疾患の概要 ・消化と吸収の概要、胃～腸 【到達目標】 ・錐体外路の機能と構造を基に錐体外路疾患の理解ができる ・消化器の機能と構造を基に消化器疾患の理解ができる				13 (7/15)	【授業単元】 整形外科疾患に纏わる生理学① ・骨折を中心とした外傷に関する機能と構造について 【到達目標】 ・骨、筋、神経の機能と構造を基に整形外科疾患の理解ができる			
6 (5/27)	【授業単元】 「脳血管疾患に纏わる生理学④」(教科書P78-89) ・脳幹、小脳について 【到達目標】 ・脳幹、小脳の機能と構造を基に脳幹、小脳疾患の理解ができる				14 (7/22)	【授業単元】 総復習 【到達目標】 これまでの学習習得度を確認し、定期試験に向けた学習計画を立てられる			
7 (6/3)	【授業単元】 「脳血管疾患に纏わる生理学⑤」(教科書P110-134) ・感覚神経 ・脳神経 【到達目標】 ・感覚、脳神経の機能と構造を基に障害を理解できる				15 (7/29)	【授業単元】 定期試験、前期の振り返り 【到達目標】 前期の習得度を確認し、今後の学習に役立てることができる。			
8 (6/3)	【授業単元】 中テスト、これまでの総復習 【到達目標】 ・前期の学習到達度お基に今後の学習計画を見直すことができる				科目の評価は、定期試験60%、小・中テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行います。 毎回授業後に行う小テストは各回5点満点、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とし、その合計(80点)の1/2の点数を小・中テストの合計点とします。またその数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとします。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	病理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
病理学は病気の原因とメカニズムを明らかにすることを目的とする学問であり、疾患や障害を理解する上では重要な知識である。ここでは組織学的形態学を中心に概観し、病気がどのように成り立っていくのかを理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域、教育現場で約14年間臨床経験を積んだ教員が、病理学の知識を伝え、知識の定着を図るとともに、各疾患を呈する対象者に対し、今後作業療法士としてどのようなスキルが求められるのかについて自身の考えを持つことができるような授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学第 5版 医学書院 参考図書 適宜授業内で紹介します。					予習復習をしっかりと行い、知識の定着を図りましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 病理学の概要について				9	【授業単元】 循環器について			
	【到達目標】 病理学の歴史について知ることができる 病理学総論について知ることができる 病院論について理解できる 病理学を学ぶ意義意欲を持つことができる					【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
2	【授業単元】 退行性病変、進行性病変について				10	【授業単元】 呼吸器について			
	【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる					【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
3	【授業単元】 代謝障害について				11	【授業単元】 呼吸器について			
	【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる					【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
4	【授業単元】 循環障害について				12	【授業単元】 消化器について			
	【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる					【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
5	【授業単元】 免疫 炎症、感染症について				13	【授業単元】 泌尿器、内分泌臓器について①			
	【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる					【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
6	【授業単元】 腫瘍について 老化について				14	【授業単元】 泌尿器、内分泌臓器について②			
	【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる					【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる			
7	【授業単元】 先天異常、奇形について				15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説			
	【到達目標】 上記に必要な知識を理解できる 上記の知識をもって臨床像をイメージできるようになる					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小・中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験またはTeamsを利用して行う。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
得た知識から対象者の臨床像をイメージし、各疾患に対し作業療法士としてどんな対応が必要か自身の考えを持てるようにしましょう。									

授業概要

科目名	運動学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	阿部亘、内海陽太		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人体の動きに関して基本的な知識を習得し、臨床および国家試験でのポイントを理解できるようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
阿部亘：回復期の病院に8年勤務。主に運動器(骨折)や脳血管障害(脳梗塞、神経難病)が専門。今後の実習や就職後における臨床につながるような内容を敬示していく。 内海陽太：回復期病院に5年勤務。外来リハビリも担当しており地域に根差した医療を経験。自身が教育を受けた学生時代の経験も含め、学生の目線に立った授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基礎運動学 第7版:医歯薬出版株式会社					授業内で提示した課題を行う				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 上肢の触診、小テスト5点			9	【授業単元】 立位姿勢の分析、小テスト5点				
	【到達目標】 上肢に関する骨、筋を触れるようになる。				【到達目標】 立位姿勢の基礎を復習し、分析できる。				
2	【授業単元】 体幹の触診、小テスト5点			10	【授業単元】 歩行動作の分析、小テスト5点				
	【到達目標】 体幹に関する骨、筋を触れるようになる。				【到達目標】 歩行動作の基礎を理解し、分析できる。				
3	【授業単元】 下肢の触診、小テスト5点			11	【授業単元】 ADL動作、小テスト5点				
	【到達目標】 下肢に関する骨、筋を触れるようになる。				【到達目標】 ADL動作の基礎を理解し、分析できる。				
4	【授業単元】 臥位姿勢の分析			12	【授業単元】 ADL動作の分析、小テスト5点				
	【到達目標】 臥位姿勢の基礎を復習し、分析できる。				【到達目標】 ADLの基礎を理解し、分析できる。				
5	【授業単元】 寝返り動作・起居動作の分析、小テスト5点			13	【授業単元】 環境設定、小テスト5点				
	【到達目標】 寝返り動作・起居動作の基礎を復習し、分析できる。				【到達目標】 環境設定の基礎を理解し、分析できる。				
6	【授業単元】 座位姿勢の分析(基礎)、小テスト5点			14	【授業単元】 全体の復習、小テスト5点				
	【到達目標】 座位姿勢の基礎を復習し、分析できる。				【到達目標】 全体の学習内容を復習し理解できる。				
7	【授業単元】 座位姿勢の分析(応用)、小テスト5点			15	【授業単元】 全体の復習、定期試験60点				
	【到達目標】 応用的な座位姿勢を理解し、分析できる。				【到達目標】 全体の学習内容を復習し理解できる。				
8	【授業単元】 起立動作の分析、中テスト20点			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 起立動作の基礎を復習し、分析できる。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験や実技試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(16回目の授業で実施)は20点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。 ・小テストは毎授業の最初または最後に実施する。									

授業概要

科目名	人間発達学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤 えり		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
基本的な人間の発達を身体・認知・社会に分けて学び、その中での課題を認識し、作業療法士としてどのように関わっていくかを学ぶ。									
【学習内容】									
作業療法士として、18年以上発達障害領域（特別支援学校や児童デイサービスや療育施設、保育園の巡回、訪問支援）で働きつつ、教材開発アドバイザーとして企業に助言したり、発達障害について勉強会を担当している教員が、小児の発達を中心に、人間の全体的な発達について授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
人間発達学					復習として授業で学んだ範囲の部分の教科書を読む				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 人間発達学概論				9	【授業単元】 運動発達（7～9カ月）			
	【到達目標】 ・発達期の区分がわかる ・発達周辺の用語を知る ・発達の原則を知る					【到達目標】 9カ月までの姿勢発達の流れを知る。 臥位から歩行までの流れを学ぶ。 脳性まひ児の姿勢と運動の特徴を知る			
2	【授業単元】 人間発達				10	【授業単元】 運動発達（10～18カ月）			
	【到達目標】 ・エリクソンの発達理論を知る ・ピアジェの発達理論を知る ・フロイトの発達理論を知る					【到達目標】 18カ月までの姿勢運動発達の流れを知る。 歩行に関して流れを学ぶ。 脳性まひ児の姿勢と運動の特徴を知る			
3	【授業単元】 実習（おもちゃ作り）				11	【授業単元】 姿勢反射、6歳までのADLの発達			
	【到達目標】 乳幼児の年齢を設定し、その乳幼児の発達段階を調べ、興味を持ちそうなおもちゃを作る。					【到達目標】 手指と把握の発達の流れを知る 言語発達の流れを知る 社会性の発達の流れを知る			
4	【授業単元】 発達検査				12	【授業単元】 上肢機能の発達			
	【到達目標】 ・いろいろな発達検査があることを知る（名前をいくつか覚える） ・デンバー、PEDI、新版K式などの検査の特徴を知る					【到達目標】 握りとつまみ動作の発達 操作の発達を知る 目と手の協調性の発達の流れを知る			
5	【授業単元】 乳幼児と触れ合う				13	【授業単元】 ADLの発達			
	【到達目標】 ・自分が作ったおもちゃで実際に乳幼児に遊んでもらう ・習った発達検査を実際に行ってみる					【到達目標】 遊びの発達の流れを知る 食事の発達の流れを知る 排泄の発達の流れを知る			
6	【授業単元】 姿勢反射と反応				14	【授業単元】 感覚・知覚・認知・社会性の発達			
	【到達目標】 ・原始反射とは何かを知る ・主要な原始反射を知る					【到達目標】 感覚統合の概要を知る 色々な感覚を学習する 共同注意を知る			
7	【授業単元】 運動発達（0～3か月）				15	【授業単元】 試験			
	【到達目標】 3か月までの姿勢の発達の流れを知る 3か月までの姿勢の発達の特徴を学ぶ 脳性まひ児の姿勢と運動の特徴を知る					【到達目標】 今まで習った範囲の確認を行う			
8	【授業単元】 中テスト 運動発達（4～6カ月）				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 6カ月までの姿勢発達の流れを知る。 6カ月までの姿勢の発達の特徴を学ぶ。 脳性まひ児の姿勢と運動の特徴を知る				・講義全体を100点満点とし、中テスト15点、小テスト55点、提出物10点、合わせて80点を半分の40点とし、定期テストを60点とする。合わせて100点満点。 上記の点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、合計55点とする。 （1回目、3回目、8回目、15回目を除く11回分）				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
人間発達は、人間の基礎です。どんな領域に行っても役に立つものなので、しっかり理解してください。わからないことや発達領域のこと、質問や相談はいつでもしてください。									

授 業 概 要

科目名	臨床心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理的な対人援助の方法と実際について理解することで、医療・福祉の現場で人を心理的に支援する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として19年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年、現在は就労支援事業所を運営している。教育歴は12年目となる。本科目では、私たち(対人援助職)が知っておくべき臨床心理学の基礎知識を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
リハビリテーションのための臨床心理学 牧瀬英幹著 南江堂					授業内容の復習。 誰かに伝えるつもりで復習をしてみましょう。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ガイダンス、リハビリテーションのための臨床心理学				9	【授業単元】 家族療法、森田療法、交流分析			
	【到達目標】 この科目の進め方や、臨床心理学の全体像をつかむ。					【到達目標】 家族療法、森田療法、交流分析について説明できる。			
2	【授業単元】 心理アセスメントの方法と倫理				10	【授業単元】 発達と心の問題			
	【到達目標】 心理アセスメントの基本的な考え方(方法と倫理)が説明できる。					【到達目標】 発達の各時期の特徴や主要な発達理論について説明できる。それらが臨床実践にどのように役立つか理解する。			
3	【授業単元】 心理検査				11	【授業単元】 認知機能のアセスメントと支援			
	【到達目標】 各種の心理検査の特徴とその方法について説明できる。					【到達目標】 認知機能の中で、とくに記憶・注意・遂行機能を中心に、その障害のアセスメントや治療方法について簡潔に説明できる。			
4	【授業単元】 無意識の欲望を探る精神分析				12	【授業単元】 臨床心理学の成り立ちと今後の展望(前編)			
	【到達目標】 リハビリテーションの現場で精神分析的な視点をもつ意義について理解する。精神分析の基本を説明できる。					【到達目標】 先人たちの思いを受け止めつつ、臨床心理学の歴史を振り返る。			
5	【授業単元】 行動療法・認知行動療法(前編)				13	【授業単元】 臨床心理学の成り立ちと今後の展望(後編)			
	【到達目標】 行動療法・認知行動療法について、簡潔に説明できる。					【到達目標】 現在の私たちの臨床心理学的な実践において、どのような考え方や姿勢が求められているかについて、説明できる。			
6	【授業単元】 行動療法・認知行動療法(後編)				14	【授業単元】 その他 必要な知識			
	【到達目標】 行動療法・認知行動療法について、より詳しく説明できる。					【到達目標】 これまでの内容を振り返りつつ、その他の周辺知識について理解する。			
7	【授業単元】 クライアント中心療法				15	【授業単元】 定期テスト、その他補足			
	【到達目標】 クライアント中心療法の治療態度や考え方について説明できる。					【到達目標】 計15回の総合計得点:60点以上			
8	【授業単元】 中テスト、その他補足				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。				
	【到達目標】 中テストの得点率6割以上。				100点の内訳は、 ①定期テストが60点満点。 ②小テスト(各回の合計)+中テストが40点満点。				
【履修に当たっての心構え・留意点】					②の内訳は、 小テスト(第1回～第7回、第9回～第14回)5点満点×全13回 = 65点満点 中テスト(第8回) 15点満点 以上の65点+15点を÷2として、40点満点。(小数点以下は切上げ)				
本科目は「心理学」の応用編(応用心理学)です。臨床現場での活用をイメージしましょう。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床実習で必要となる上肢、下肢を中心とした人体の運動機能と、解剖生理学で学び得た基礎医学の知識を統合し理解を深める。特に上肢・下肢・脊柱の神経支配や運動機能、姿勢や運動学習等について理解・説明することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験をしております。また、通信制の大学にて教育学を履修し、専任教員養成研修受講済み。双方向のやりとりを通して、解剖学や生理学の授業で学んだ内容を振り返り理解を深めていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各回で使用する参考図書は異なるため、使用した参考図書がある場合は各回で案内を行う。					解剖学、生理学、運動学の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 中枢神経(脳)				9	【授業単元】 骨・関節			
	【到達目標】 授業の概要や進め方を理解することができる。 中枢神経の構造や働きについて理解することができる。					【到達目標】 骨・関節の構造や働きについて理解することができる。			
2	【授業単元】 中枢神経(脊髄)				10	【授業単元】 運動学①			
	【到達目標】 脊髄の構造や働きについて理解することができる。					【到達目標】 顔面・体幹筋の構造や働きについて理解することができる。			
3	【授業単元】 末梢神経(脳神経)				11	【授業単元】 運動学②			
	【到達目標】 脳神経の構造や働きについて理解することができる。					【到達目標】 上肢の運動・筋の構造や働きについて理解することができる。			
4	【授業単元】 自律神経・脳血管				12	【授業単元】 運動学③			
	【到達目標】 自律神経の構造や働きについて理解することができる。 脳血管の構造や役割について理解することができる。					【到達目標】 下肢の運動・筋の構造や働きについて理解することができる。			
5	【授業単元】 循環器系				13	【授業単元】 運動学④			
	【到達目標】 循環器系の構造や働きについて理解することができる。					【到達目標】 バイオメカニクス・筋の収縮様式・運動学習などについて理解することができる。			
6	【授業単元】 呼吸器系				14	【授業単元】 総復習			
	【到達目標】 呼吸器系の構造や働きについて理解することができる。					【到達目標】 今までの学びについて振り返り、自身の理解が不十分な点を理解することができる。			
7	【授業単元】 消化器系				15	【授業単元】 定期テスト 振り返り			
	【到達目標】 消化器系の構造や働きについて理解することができる。					【到達目標】 試験にて学習の理解度を把握することができる。 振り返りを通して理解が不十分な点を理解することができる。			
8	【授業単元】 前半のまとめ・振り返り 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験もしくは口頭試験で評価する。毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の進捗や理解度、集団の学習状況によって適宜内容を変更することがあるため、その場合は適宜案内を行う。 主体性を持って、授業に参加しましょう。									

授 業 概 要

科目名	内科系医学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田中直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
病理学概論、及び内科疾患を記述する専門用語の内容を理解し、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得することで、臨床における観察力を培う。病因論、変性、萎縮、細胞死などの理解とともに、循環器疾患、肺疾患、消化器疾患、代謝栄養関連疾患、内分泌疾患等について理解する。心電図の異常と病態を結びつけることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験をしております。また、通信制の大学にて教育学を履修し、専任教員養成研修受講済み。双方向のやりとりを通して、様々な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の理解を深めていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版					内科学は生理学や解剖学などの基礎医学を基盤としているため、生理学や解剖学の復習をお願いします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 内科学とは オリエンテーション 循環器疾患について①(虚血性心疾患・心不全・大血管疾患・末梢動脈疾患) 【到達目標】 循環器系疾患の概要とその治療法について理解することができる。				9	【授業単元】 腎・泌尿器系疾患について①(腎不全・下部尿路疾患) 【到達目標】 腎・泌尿器系疾患の概要とその治療法について理解することができる。			
	【授業単元】 循環器疾患について②(虚血性心疾患・心不全・大血管疾患・末梢動脈疾患) 【到達目標】 循環器系疾患の概要とその治療法について理解することができる。					【授業単元】 腎・泌尿器系疾患について②(腎不全・下部尿路疾患) 【到達目標】 腎・泌尿器系疾患の概要とその治療法について理解することができる。			
2	【授業単元】 呼吸器疾患について①(慢性閉塞性肺疾患(COPD) 間質性肺炎 誤嚥性肺炎) 【到達目標】 呼吸器系疾患の概要とその治療法について理解することができる。				11	【授業単元】 内分泌・代謝系疾患について①(ホルモン機能亢進症、機能低下症・糖尿病・肥満症) 【到達目標】 内分泌・代謝系疾患の概要とその治療法について理解することができる。			
	【授業単元】 呼吸器疾患について②(慢性閉塞性肺疾患(COPD) 間質性肺炎 誤嚥性肺炎) 【到達目標】 呼吸器系疾患の概要とその治療法について理解することができる。					【授業単元】 内分泌・代謝系疾患について②(ホルモン機能亢進症、機能低下症・糖尿病・肥満症) 【到達目標】 内分泌・代謝系疾患の概要とその治療法について理解することができる。			
3	【授業単元】 消化管疾患について①(肝炎・腫瘍) 【到達目標】 消化器系疾患の概要とその治療法について理解することができる。				13	【授業単元】 血液疾患、自己免疫疾患について(貧血・膠原病) 【到達目標】 血液疾患、自己免疫疾患の概要とその治療法について理解することができる。			
	【授業単元】 消化管疾患について②(肝炎・腫瘍) 【到達目標】 消化器系疾患の概要とその治療法について理解することができる。					【授業単元】 血液疾患、自己免疫疾患について(貧血・膠原病) 【到達目標】 血液疾患、自己免疫疾患の概要とその治療法について理解することができる。			
4	【授業単元】 中テスト・前半の授業の振り返り 【到達目標】 どの程度内科学について理解できているか確認することができる。 理解が不十分な内容について理解を深めることができる。				15	【授業単元】 定期試験・前期の振り返りおよび試験解答 【到達目標】 どの程度内科学について理解できているか確認することができる。 理解が不十分な内容について理解を深めることができる。			
	【授業単元】 中テスト・前半の授業の振り返り 【到達目標】 どの程度内科学について理解できているか確認することができる。 理解が不十分な内容について理解を深めることができる。					【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 毎回授業の小テストは各回5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の進捗や理解度、集団の学習状況によって適宜内容を変更することがあるため、その場合は適宜案内を行う。 主体的な参加と分からないことは積極的に質問をお願いします。									

授業概要

科目名	外科系医学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	森 優太		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
整形外科疾患を理解するための基礎となる部分を理解することができる。 整形外科疾患の概要を理解することができる。 整形外科疾患の概要と義肢装具学の概要を連動して考えることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
外来整形外科で小児から高齢者までの全身の整形外科疾患及びスポーツ疾患(レベルはクラブチームからプロレベル)を経験した教員が、座学中心ではあるが各教科と関連付け、苦手を楽しいに変える授業を行っていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書:標準理学療法学・作業療法学 整形外科科学第5版 参考図書:病気が見えるVol.11運動器・整形外科					授業内容の復習と解剖運動生理学など関連教科の復習を行うと理解をしやすい				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 整形外科疾患と作業療法のつながりを考える				9	【授業単元】 上肢の骨折			
	【到達目標】 整形外科疾患を学ぶにあたり作業療法の必要性について理解する					【到達目標】 上肢の骨折の概要を理解する			
2	【授業単元】 整形外科疾患を理解するための基礎				10	【授業単元】 下肢の骨折			
	【到達目標】 整形外科疾患を学ぶにあたり1年生で学んだ必要な知識をピックアップし理解する 整形外科疾患を学ぶにあたり必要な専門用語について理解する					【到達目標】 下肢の骨折の概要を理解する			
3	【授業単元】 炎症性疾患・代謝・内分泌疾患・退行変性疾患				11	【授業単元】 関節における外傷性疾患			
	【到達目標】 炎症性疾患・代謝・内分泌疾患・退行変性疾患各種概要を理解する					【到達目標】 関節における外傷性疾患の概要を理解する			
4	【授業単元】 循環障害と壊死性疾患				12	【授業単元】 末梢神経における外傷性疾患			
	【到達目標】 循環障害と壊死性疾患の概要を理解する					【到達目標】 末梢神経における外傷性疾患の概要を理解する			
5	【授業単元】 骨・軟部腫瘍疾患・神経/筋疾患				13	【授業単元】 腫・靭帯における外傷性疾患 スポーツ疾患			
	【到達目標】 骨・軟部腫瘍疾患・神経/筋疾患の概要を理解する					【到達目標】 腫・靭帯における外傷性疾患 スポーツ疾患の概要を理解する			
6	【授業単元】 脊椎の疾患				14	【授業単元】 熱傷・後半の復習			
	【到達目標】 脊椎の疾患の概要を理解する					【到達目標】 熱傷の概要を理解する 後半学習した内容を復習し理解を深める ワークシートを用いて理解を深める			
7	【授業単元】 前半の復習				15	【授業単元】 定期試験・全体を通しての振り返り及び試験解答(当日返却)			
	【到達目標】 前半学習した内容を復習し理解を深める ワークシートを用いて理解を深める					【到達目標】 外科系医学で学んだ内容を理解したうえで6割以上の点数を獲得する			
8	【授業単元】 中テスト・前半の振り返り及び試験解答(当日返却)				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前半学習した知識を理解したうえで中テストで6割以上の点数を獲得する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講義時間の学習に加え復習することで理解が深まる 予習はできるのであれば理想だが無理に行う必要はない(講義で説明) 教科書は毎回必ず持参すること									

授 業 概 要

科目名	精神科系医学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神疾患の病態、病型と分類並びに精神疾患から派生する障害を理解し、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得することで、臨床における観察力を培う。精神科作業療法の実践に結びつける。 ICD10に基づいて、基本的な精神障害の病名と特徴を理解する。薬物療法、地域生活・就労支援等について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域、教育現場で約14年間経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					演習を通してながら、臨床で対象者へ評価を行うイメージを養っていきましょう。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション①			9	【授業単元】 パーソナリティ障害				
	【到達目標】 精神障害の疾患、症状、対象者の生活についてイメージを持つことができる				【到達目標】 疾患の原因、症状、それによる生活への影響について考え、まとめることができる				
2	【授業単元】 オリエンテーション②			10	【授業単元】 アルコール依存症				
	【到達目標】 精神障害の歴史と現状について理解できる				【到達目標】 疾患の原因、症状、それによる生活への影響について考え、まとめることができる				
3	【授業単元】 グループワーク① 疾患についての調べ学習			11	【授業単元】 その他の精神疾患				
	【到達目標】 疾患の原因、症状、それによる生活への影響について考え、まとめることができる				【到達目標】 疾患の原因、症状、それによる生活への影響について考え、まとめることができる				
4	【授業単元】 グループワーク② 疾患についての調べ学習			12	【授業単元】 疾患を持つ方の生活を考える①				
	【到達目標】 疾患の原因、症状、それによる生活への影響について考え、まとめることができる				【到達目標】 映画を通して、疾患の特徴、症状、疾患を呈する方の生活をイメージすることができる				
5	【授業単元】 グループワーク③ 疾患についての調べ学習			13	【授業単元】 疾患を持つ方の生活を考える②				
	【到達目標】 疾患の原因、症状、それによる生活への影響について考え、発表することができる 他者の発表を聞き、新しく得た知識を理解できる				【到達目標】 映画を通して、疾患の特徴、症状、疾患を呈する方の生活をイメージすることができる				
6	【授業単元】 統合失調症			14	【授業単元】 知識のまとめ				
	【到達目標】 疾患の原因、症状、それによる生活への影響について考え、理解することができる				【到達目標】 これまでに学んだ知識について、問題を解くことで自らの理解度や習得度を確認することができる				
7	【授業単元】 気分障害			15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説				
	【到達目標】 疾患の原因、症状、それによる生活への影響について考え、理解することができる				【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 毎回授業の小テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うが、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
自身・他者に興味を持ちましょう。作業療法評価に必要な視点について学び、現場での実践に備えましょう。									

授 業 概 要

科目名	小児科系医学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤 えり		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
重症心身障害児や医療的ケア児が日々増加し、作業療法士もこれらの方々を担当する機会が増える中で、それらの現状を理解し、小児の疾患と障害の特性を学ぶ。									
【学習内容】									
作業療法士として、18年以上発達障害領域（児童デイサービスや特別支援学校・療育施設・保育園や小学校の巡回）で働きつつ、発達障害と小児疾患について勉強会を担当している教員が、小児の疾患と治療を中心に講義を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
小児科学・資料					予習（教科書を読む）・復習（資料を読み返す）				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 小児科学概、 診断と治療の概論				9	【授業単元】 腎、泌尿器系、生殖器疾患 腫瘍性疾患			
	【到達目標】 小児の身体、脳などの各臓器の発育について理解する。 診断と検査の過程を知り、治療や訓練に関わる情報をつかむ方法を理解する。					【到達目標】 腎機能検査の概略を知る 悪性腫瘍の治療や予後について理解を深める			
2	【授業単元】 新生児、未熟児と疾患 先天異常と遺伝病、				10	【授業単元】 習癖、睡眠関連病態、心身医学的疾患			
	【到達目標】 新生児、未熟児の代表的疾患を知る 先天異常の発生要因を理解する。 遺伝病と遺伝の法則を理解する 臨床の場で多い疾患の特徴を理解する					【到達目標】 身体疾患と心身疾患を知り、その関係を理解する			
3	【授業単元】 神経・筋疾患				11	【授業単元】 重症心身障害児、医療的ケア児			
	【到達目標】 おもな神経、筋疾患を知る てんかんや脳性麻痺、筋疾患の特徴と種類を学ぶ					【到達目標】 重症心身障害児の概念と背景疾患の主なものを知る 重症心身障害児のようすや特徴を理解する どのように在宅で生活しているかを、支援とともに理解する			
4	【授業単元】 発達障害とその周辺疾患・二次障害 骨・関節疾患、 循環器疾患				12	【授業単元】 眼科的疾患			
	【到達目標】 発達障害の定義、特徴、支援などを知る 発達障害の主な疾患を学ぶ 骨、関節疾患の種類と特徴を知る 心機能障害の臨床症状について知る					【到達目標】 視機能の発達と異常を知る 眼科的疾患を知る			
5	【授業単元】 呼吸器疾患 感染症、				13	【授業単元】 耳鼻科的疾患			
	【到達目標】 呼吸機能とその臨床症状について知る OTとの関連を知る 感染症のそれぞれの特徴を知る					【到達目標】 聴覚障害および小児耳鼻科の代表的な急性疾患を知る 聴覚障害や検査を知る			
6	【授業単元】 消化器疾患 内分泌・代謝疾患				14	【授業単元】 児童虐待、事故			
	【到達目標】 消化器系の症状の特徴について理解する OTの役割について理解する 各種ホルモンの働きについて、生理学の知識を整理しながら各疾患の病態を理解する					【到達目標】 児童虐待の分類と種類を知る 虐待を受けた子の対応とその特性を理解する			
7	【授業単元】 血液疾患、 免疫・アレルギー疾患				15	【授業単元】 定期試験、まとめ			
	【到達目標】 各血球、血漿成分とその働き、および病的状態について知る 免疫機構と自己免疫疾患との関係を知る					【到達目標】 小児科学で学んだこと、疾患や障害などを理解し、関連付けることができる。			
8	【授業単元】 中間テスト、まとめ、ビデオ				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テストやレポートなどの提出物を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ここまで疾患や特性などを理解する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
とても難しい単元になります。実際にビデオを見たりしながらイメージをつけていってください。									

授 業 概 要

科目名	脳神経系医学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大橋航祐		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
脳神経内科疾患について理解し、説明することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当教員は身体障害領域(中枢神経疾患、整形外科疾患)で約11年経験。基礎となる解剖運動学の知識と繋げながら疾患理解を促す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版					各自振り返りを行うこと				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 脳神経内科学に関わる解剖知識				9	【授業単元】 高次脳機能障害について①			
	【到達目標】 疾患の土台となる基礎知識を理解することができる					【到達目標】 障害について理解・説明することができる			
2	【授業単元】 脳血管疾患について①				10	【授業単元】 高次脳機能障害について②			
	【到達目標】 疾患について理解・説明することができる					【到達目標】 障害について理解・説明することができる			
3	【授業単元】 脳血管疾患について②				11	【授業単元】 認知症について			
	【到達目標】 疾患について理解・説明することができる					【到達目標】 疾患について理解・説明することができる			
4	【授業単元】 脳血管疾患について③				12	【授業単元】 脳画像について			
	【到達目標】 疾患について理解・説明することができる					【到達目標】 疾患について理解・説明することができる			
5	【授業単元】 難聴障害について				13	【授業単元】 その他脳疾患について			
	【到達目標】 障害について理解・説明することができる					【到達目標】 疾患について理解・説明することができる			
6	【授業単元】 難聴外路障害について				14	【授業単元】 総復習			
	【到達目標】 障害について理解・説明することができる					【到達目標】 疾患について理解・説明することができる			
7	【授業単元】 難聴外路疾患について				15	【授業単元】 まとめ 定期テスト			
	【到達目標】 疾患について理解・説明することができる					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。			
8	【授業単元】 中間テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験にて行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる 自身の理解度、習得度を把握することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
演習が多いので、積極的に参加すること。									

科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。
また、試験は筆記試験にて行う。
毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。

授業概要

科目名	一般臨床医学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学び理解できること									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士(臨床20年目)が、臨床現場で必要となる医学知識を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々なリスク管理や作業療法の展開の仕方を学ぶ									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業資料、指定教科書					自主学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 医学概論(医学の基本、疾病の概念)				9	【授業単元】 中枢神経の障害と臨床医学			
	【到達目標】 医学の歴史について説明できる、生命倫理について説明できる、医の倫理について説明できる、疾病の定義と分類について説明できる					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、中枢神経の障害の一般的疾患について説明できる			
2	【授業単元】 臨床医学総論(病理学概論、疾病の診断、疾病の治療)				10	【授業単元】 末梢神経・筋の障害と臨床医学			
	【到達目標】 疾病の原因と身体的変化を理解する、疾病診断の概要を理解する、疾病治療の概要を理解する					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、末梢神経・筋障害の一般的疾患について説明できる			
3	【授業単元】 リハビリテーション医療の総論、健康と生活機能の評価、リハビリテーション計画チームと他職種連携				11	【授業単元】 小児の障害と臨床医学			
	【到達目標】 リハビリテーション医学の概要について理解する、健康と生活機能に関わる評価について理解する、リハビリテーション計画について理解する、リハビリテーションチームと他職種連携について理解する、かつそれぞれについて説明できる					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、小児の障害の一般的疾患について説明できる			
4	【授業単元】 救急医学				12	【授業単元】 内部障害と臨床医学			
	【到達目標】 救急医療体制について説明できる、症候群について説明できる、心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、各内部障害の一般的疾患について説明できる			
5	【授業単元】 臨床心理学(基礎理論、発達心理および臨床心理)				13	【授業単元】 がん関連障害と臨床医学			
	【到達目標】 人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ 臨床心理学の基礎について理解する 発達に沿った心理と心理療法について理解する					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、がん関連障害の一般的疾患について説明できる			
6	【授業単元】 精神障害と臨床医学				14	【授業単元】 皮膚障害と臨床医学			
	【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる、精神障害の一般的疾患について説明できる					【到達目標】 疫学について説明できる、病理・病態・症候について説明できる、評価・検査について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる			
7	【授業単元】 骨関節障害と臨床医学				15	【授業単元】 老年期障害と臨床医学			
	【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる、骨関節疾患の一般的疾患について説明できる					【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、老年期障害の一般的疾患について説明できる			
8	【授業単元】 痛みと臨床医学				【成績評価の方法と基準】 ○科目の評価は、定期試験60%、授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 ○試験はteams上で行う(記述or選択式 詳細は授業時間内、teams上でアナウンスを行う)。 ○授業の小テストは合計65点、中テスト(おおよそ半分の授業回数で実施予定)は15点満点とする(合計80点)。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする(40点)。 その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、慢性疼痛の分類について説明できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験や臨床に出た際に必要になる知識ですので積極的な参加を期待します。 分からないことがあれば授業時やteams上でいつでも質問してください。									

授 業 概 要

科目名	一般臨床医学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期前半	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
各疾患の病因、病態生理、症候、診断、栄養管理と薬理、画像診断、障害予防について学ぶ									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士(臨床20年目)が、臨床現場で必要となる医学知識を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々なリスク管理や作業療法の展開の仕方を学ぶ									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業資料 指定教科書					自主学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1.2	【授業単元】 循環器疾患								
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
3.4	【授業単元】 呼吸器疾患、消化器疾患								
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
5.6	【授業単元】 肝・胆・脾疾患、感染症								
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
7.8	【授業単元】 血液・造血器疾患、内分泌疾患								
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
9,10	【授業単元】 腎・尿路・生殖器疾患、神経・運動器疾患								
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
10,12	【授業単元】 アレルギー疾患・膠原病・免疫病、代謝・栄養障害								
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
13,14	【授業単元】 感覚器疾患、中毒・染色体・遺伝子異常症								
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
15	【授業単元】 皮膚および胸壁の疾患、総復習、テスト					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(おおよそ半分の授業週で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ これまでの講義の中で行った各疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防の確認								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国試や臨床に出た際に必要になる知識ですので積極的な参加を期待します。 分からないことがあれば授業時やteams上でいつでも質問してください。									

授 業 概 要

科目名	社会福祉概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	酒井真弓		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉の価値や倫理、制度、歴史を学ぶことを通して、対象者、その家族、社会環境などを多面的に理解する視点を養う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
社会福祉士として、障害福祉サービス事業において、生活支援員、相談業務、事業管理業務などに23年従事。個別支援、家族支援、多職種連携などの支援実践の事例を取り入れながら社会福祉を具体的に理解できるように授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 授業オリエンテーション 社会福祉とは、社会福祉のあゆみ(教科書P.2-28)			9	【授業単元】 精神保健福祉(P.165 -178)				
	【到達目標】 医療職として社会福祉を学ぶ意味を理解できる。 社会福祉のあゆみを通して、人権尊重、人間観の変遷を理解する。				【到達目標】 精神保健の理解を通して対人援助職として自身のセルフモニタリングの必要性を理解する。				
2	【授業単元】 社会保障制度と社会福祉を展開する組織(教科書P.29-45)			10	【授業単元】 社会福祉施設の役割(P.180-199)				
	【到達目標】 社会保障制度がどのように生活の関わるのかを学ぶ。 社会福祉を展開する組織を知ること多職種連携の一部を理解する。				【到達目標】 障害福祉サービスの施設運営を参考にしながら社会福祉施設の役割を理解する。				
3	【授業単元】 子ども家庭福祉(P.48-69)			11	【授業単元】 社会福祉を担う人々(P.191-199)				
	【到達目標】 子どもを取り巻く社会状況、多様な問題を知り、子どもの育ちを保障する様々な施策について理解を深める。				【到達目標】 社会福祉従事者の様々な役割を理解して、多職種連携のイメージを持つ。				
4	【授業単元】 障害者福祉P.70-88)			12	【授業単元】 相談援助の目的と方法ーソーシャルワークの視点から(P.200-211)				
	【到達目標】 障害者の定義、法律の概要などを学び障害者を支える理念について理解を深める。				【到達目標】 相談援助のプロセスを理解する。				
5	【授業単元】 高齢者福祉 介護福祉と介護保険制度(P.89-120)			13	【授業単元】 社会福祉の実践例 多職種連携を責重とした医療ソーシャルワーカーの実践例から(P.212-221)				
	【到達目標】 高齢社会における福祉ニーズを理解し、高齢者を支援する制度、政策の全体像をつかみ、課題の見極め、支援の有り方を整理する。				【到達目標】 事例検討を通して、自身の援助観の基礎をつくる。 多職種連携の必要性和医療ソーシャルワーカーの役割を理解する。				
6	【授業単元】 低所得者福祉(P.121-134)			14	【授業単元】 保健医療福祉に関する諸問題の例(P. 222-229)				
	【到達目標】 貧困問題を経済的問題、多種多様な社会問題から理解する。 生活保護法について理解する。				【到達目標】 これまでの学びを振り返り、医療従事者に求められる役割について考える。				
7	【授業単元】 地域福祉(P.135 -150)			15	【授業単元】 定期試験 まとめ				
	【到達目標】 地域共生社会の実現と呼ばれる政策動向の中で地域福祉がどのように展開しているか理解する				【到達目標】 定期試験の合格				
8	【授業単元】 医療福祉(P.151 -164)			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 利用者、患者を障害、疾病の側面からだけではなく、生活歴、経済的状況、労働状況、精神的状況など多角的な視点で捉えられるようになる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	多職種連携論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	松本 秀一 荒田 英成		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
正しいコミュニケーションについて学び、専門職間との効率の良い連携や協働について基礎知識や理論を学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
現場での、実際の連携場面等を含むディスカッションをしながら学んでいく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コミュニケーション論・他職種連携論					予定なし				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 コミュニケーション論・他職種連携論はおもしろい			9	【授業単元】 他職種連携とチーム医療				
	【到達目標】 コミュニケーション論・他職種連携論を知る				【到達目標】 他職種を理解し、他職種連携の目的を知る				
2	【授業単元】 コミュニケーションの基本的な考え方			10	【授業単元】 リーダーシップ論				
	【到達目標】 コミュニケーションの本質・目的・構成要素を知る				【到達目標】 意思決定能力・問題解決能力を身につける				
3	【授業単元】 コミュニケーションに必要とされる力			11	【授業単元】 チーム・アプローチの基本構造				
	【到達目標】 傾聴力や説得力を学び、意思決定の支援や人間関係を発展させる力を身につける				【到達目標】 チームビルディング・リスクマネジメントを学び、組織としての目標共有や役割分担について理解				
4	【授業単元】 バーバル・コミュニケーション			12	【授業単元】 チーム・アプローチにおける課題と対応				
	【到達目標】 言語コミュニケーションの要素を学び、表現ができるようになる				【到達目標】 ファシリテーションやアサーションを学び、多様性への対応ができるようになる				
5	【授業単元】 ノンバーバル・コミュニケーション			13	【授業単元】 他職種連携の実践(急性期)				
	【到達目標】 感情の表現や語感を活用してのコミュニケーションが取れるようになる				【到達目標】 急性期における他職種連携のポイントを知り、目標の共有と役割の分担について学ぶ				
6	【授業単元】 コミュニケーションの手法			14	【授業単元】 他職種連携の実践(在宅)				
	【到達目標】 コミュニケーションの手法について学ぶ				【到達目標】 在宅医療における他職種連携のポイントを知り、目標の共有と役割の分担について学ぶ				
7	【授業単元】 対象別の伝達			15	【授業単元】 テスト				
	【到達目標】 対象者の特性を理解し、相手への伝え方を学ぶ				【到達目標】 コミュニケーション論・他職種連携論を理解する				
8	【授業単元】 医療面接・中テスト			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 面接の概要を知り、リハ専門職が行う面接の特徴を学ぶ								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	身体運動系作業療法評価学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
主に成人における身体障害領域でのリハビリテーション評価全般と、一般的な作業療法評価について学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験しております。また、通信制の大学にて教育学を履修し、専任教員養成研修受講済み。現在は週に1度訪問リハビリで臨床を継続。本講義では、解剖運動学などの基礎医学的な解釈を踏まえながら、身体機能における評価法を教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
作業療法評価学 第4版					授業時間外を利用して計画的に復習をして下さい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション/臨床における評価の位置づけと重要性について/面接について				9	【授業単元】 関節可動域測定について①			
	【到達目標】 授業の流れについて理解することができる。臨床における評価の意義や流れを理解し、今後の学習の心構えを作ることができる。面接の評価バッテリーや目的について理解することができる。					【到達目標】 関節可動域測定の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
2	【授業単元】 意識レベル・バイタルサイン測定について				10	【授業単元】 関節可動域測定について②			
	【到達目標】 意識レベルの評価方法について理解することができる。 血圧などのバイタルサインについて理解することができる。					【到達目標】 上肢と下肢における関節可動域測定の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
3	【授業単元】 OSCE体験				11	【授業単元】 関節可動域測定について③			
	【到達目標】 次年度以降行う、OSCEの概要を理解し、将来像のイメージをつけることができる。					【到達目標】 上肢と下肢における関節可動域測定の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
4	【授業単元】 触診(骨)①				12	【授業単元】 徒手筋力検査法について①			
	【到達目標】 主要な上肢の骨を適切に触診することができる。					【到達目標】 徒手筋力検査法の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
5	【授業単元】 触診(骨)②				13	【授業単元】 徒手筋力検査法について①			
	【到達目標】 主要な下肢の骨を適切に触診することができる。					【到達目標】 徒手筋力検査法の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
6	【授業単元】 触診(筋)①				14	【授業単元】 振り返り(ROM・MMT)			
	【到達目標】 主要な上肢の筋を適切に触診することができる。					【到達目標】 ROM・MMTの振り返り、各検査の目的、注意点、実施方法を述べることができる。各検査結果を適切に記載することができる。			
7	【授業単元】 触診(筋)②				15	【授業単元】 総復習・振り返り 定期テスト			
	【到達目標】 主要な下肢の筋を適切に触診することができる。					【到達目標】 総復習と振り返り、定期試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ・振り返り 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト又は提出課題等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験や中テスト、小テストは筆記or口頭or実技試験とする。 各回授業の小テスト又は課題提出で5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の進捗や理解度、集団の学習状況によって適宜内容を変更することがあるため、その場合は適宜案内を行う。 主体性を持って、授業に参加しましょう。									

授 業 概 要

科目名	身体運動系作業療法評価学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
身体運動系作業療法評価総論について理解する。これまでに学んだ基礎知識を踏まえ、これら領域の基礎的な評価技法を習得する。また身体障害領域の臨床において実際に評価をする総合的な能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験をしております。また、通信制の大学にて教育学を履修し、専任教員養成研修受講済み。現在は週に1度訪問リハビリで臨床を継続。本講義では、解剖運動学などの基礎医学的な解釈を踏まえながら、身体機能における評価法実技を教示します。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
作業療法評価学 第4版					授業時間外を利用して計画的に実技の練習をして下さい。予め申し出て頂ければ、担当教員が練習に同席することも可能です。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション/臨床における評価の位置づけと重要性について/面接について				9	【授業単元】 関節可動域測定について①			
	【到達目標】 授業の流れについて理解することができる。臨床における評価の意義や流れを理解し、今後の学習の心構えを作ることができる。面接の評価バッテリーや目的について理解することができる。					【到達目標】 関節可動域測定の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
2	【授業単元】 意識レベル・バイタルサイン測定について				10	【授業単元】 関節可動域測定について②			
	【到達目標】 意識レベルの評価方法について理解することができる。 血圧などのバイタルサインについて理解することができる。					【到達目標】 上肢と下肢における関節可動域測定の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
3	【授業単元】 OSCE振り返り				11	【授業単元】 関節可動域測定について③			
	【到達目標】 次年度以降行う、OSCEの概要を理解し、将来像のイメージをつけることができる。					【到達目標】 上肢と下肢における関節可動域測定の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
4	【授業単元】 触診(骨)①				12	【授業単元】 徒手筋力検査法について①			
	【到達目標】 主要な上肢の骨を適切に触診することができる。					【到達目標】 徒手筋力検査法の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
5	【授業単元】 触診(骨)②				13	【授業単元】 徒手筋力検査法について①			
	【到達目標】 主要な下肢の骨を適切に触診することができる。					【到達目標】 徒手筋力検査法の目的、注意点、実施方法を理解できる。			
6	【授業単元】 触診(筋)①				14	【授業単元】 振り返り(ROM・MMT)			
	【到達目標】 主要な上肢の筋を適切に触診することができる。					【到達目標】 ROM・MMTの振り返り、各検査の目的、注意点、実施方法を述べるができる。各検査結果を適切に記載することができる。			
7	【授業単元】 触診(筋)②				15	【授業単元】 総復習・振り返り 定期テスト			
	【到達目標】 主要な下肢の筋を適切に触診することができる。					【到達目標】 総復習と振り返り、定期試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ・振り返り 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト又は提出課題等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験や中テスト、小テストは筆記or口頭or実技試験とする。 各回授業の小テスト又は課題提出で5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の進捗や理解度、集団の学習状況によって適宜内容を変更することがあるため、その場合は適宜案内を行う。 主体性を持って、授業に参加しましょう。									

授 業 概 要

科目名	身体運動系作業療法評価学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
身体運動系評価の定義、評価の手順、情報収集と解釈について理解する。対象者の基本情報を基に評価計画を立てることができる。評価面接と観察と記録の基本的な技法を身につける。各領域のアセスメント法及び代表的疾患の評価事例について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期病院と訪問リハビリで臨床を経験し、小児から高齢者まで幅広く経験をしております。また、通信制の大学にて教育学を履修し、専任教員養成研修受講済み。現在は週に1度訪問リハビリで臨床を継続。本講義では、評価法実技や各疾患に対する考え方を教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
作業療法評価学 第4版					授業時間外を利用して計画的に実技の練習をして下さい。予め申し出て頂ければ、担当教員が練習に同席することも可能です。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション MMT下肢				9	【授業単元】 上肢機能検査(STEF)			
	【到達目標】 授業の概要や進め方を理解することができる。 MMT(下肢)を実施することができる。					【到達目標】 上肢機能検査の評価概要・実施方法などを理解することができる。			
2	【授業単元】 握力・ピンチ力				10	【授業単元】 麻痺の検査①			
	【到達目標】 握力・ピンチ力の評価概要・実施方法などを理解することができる。					【到達目標】 麻痺の検査の目的・注意事項などを理解し実施することができる。			
3	【授業単元】 筋緊張評価				11	【授業単元】 麻痺の検査②			
	【到達目標】 筋緊張の評価概要・実施方法などを理解することができる。					【到達目標】 麻痺の検査の目的・注意事項などを理解し実施することができる。			
4	【授業単元】 感覚検査				12	【授業単元】 麻痺の検査③			
	【到達目標】 感覚検査の評価概要・実施方法などを理解することができる。					【到達目標】 麻痺の検査の目的・注意事項などを理解し実施することができる。			
5	【授業単元】 バランス検査				13	【授業単元】 上肢機能検査			
	【到達目標】 バランス検査の評価概要・実施方法などを理解することができる。					【到達目標】 上肢機能検査を適切に実施することができる。			
6	【授業単元】 協調性・反射検査				14	【授業単元】 振り振り			
	【到達目標】 協調性・反射検査の評価概要・実施方法などを理解することができる。					【到達目標】 麻痺の検査・上肢機能検査を振り振り、適切に実施することができる。			
7	【授業単元】 振り振り				15	【授業単元】 定期テスト 振り振り			
	【到達目標】 筋力検査・筋緊張検査・バランス検査・感覚検査・反射検査を振り振り適切に実施することができる。					【到達目標】 各評価を適切に実施することができる。 試験を通して自身の課題を理解し、今後の学習に活かすことができる。			
8	【授業単元】 中テスト 振り振り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト又は提出課題等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験や中テスト、小テストは筆記or口頭or実技試験とする。 各回授業の小テスト又は課題提出で5点満点とし、中テスト15点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 筋力検査・筋緊張検査・バランス検査・感覚検査・反射検査を適切に実施することができる。 振り振りを通して自身の課題を把握することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業の進捗や理解度、集団の学習状況によって適宜内容を変更することがあるため、その場合は適宜案内を行う。 主体性を持って、授業に参加しましょう。									

授業概要

科目名	精神心理系作業療法評価学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
主に精神障害領域でのリハビリテーション評価全般と、一般的な作業療法評価について学ぶ。相互交流的リーズニングについて理解する。省察により自己理解を深めることによって、対話スキル、自己表現スキル、社会的スキルなどを身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域、教育現場で約14年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行っています。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					演習を通してながら、臨床で対象者へ評価を行うイメージを養っていきましょう。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 評価とは 自身を評価してみよう/認知特性について			9	【授業単元】 他者を評価してみよう 認知機能について：HDS-R/MMSE				
	【到達目標】 作業療法に必要な評価について理解することができる 評価ツールを通して、自分を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				
2	【授業単元】 自身を評価してみよう 意欲、ストレス、気分：Vitality Index、やる気スコア、SDS、GSES			10	【授業単元】 他者を評価してみよう 認知機能について：HDS-R/MMSE				
	【到達目標】 評価ツールを通して、自分を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				
3	【授業単元】 自身・他者を評価してみよう 気分の評価について			11	【授業単元】 他者を評価してみよう 認知機能について：コース立方体				
	【到達目標】 評価ツールを通して、自分、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				
4	【授業単元】 他者を評価してみよう 評価に必要なコミュニケーション技法について			12	【授業単元】 他者を評価してみよう 認知機能について：コース立方体、MoCA				
	【到達目標】 他者を知るためのコミュニケーション技法について理解し実践できるようになる				【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価の手順について確認できる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				
5	【授業単元】 他者を評価してみよう 面接について			13	【授業単元】 実際の症例について考えてみよう①				
	【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				【到達目標】 症例について考えることで、評価についての包括的な視点を持つことができる				
6	【授業単元】 他者を評価してみよう 観察について			14	【授業単元】 実際の症例について考えてみよう②				
	【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる				【到達目標】 症例について考えることで、評価についての包括的な視点を持つことができる				
7	【授業単元】 他者を評価してみよう 作業面接・観察について			15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説				
	【到達目標】 記録の仕方について学ぶことが出来る 作業の様子を観察することができる				【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 毎回授業の小テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うかが、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。					
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
自身・他者に興味を持ちましょう。作業療法評価に必要な視点について学び、現場での実践に備えましょう。									

授業概要

科目名	精神心理系作業療法評価学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神障害作業療法評価総論について理解する。これまでに学んだ精神障害領域、高齢期領域の基礎知識を踏まえ、これら領域の基礎的な評価技法を習得する。またこれら領域の臨床において実際に評価をする総合的な能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域、教育現場で約14年間経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行っていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
精神科リハビリテーション評価法ハンドブック 必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					必要な知識の理解と演習を通してながら、臨床で対象者へ評価を行うイメージを養っていきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 依存症について			
	【到達目標】 精神領域での作業療法の概要について知ることができる 上記における評価・介入のポイントについて理解することができる					【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解することができる			
2	【授業単元】 精神科作業療法における情報収集について				10	【授業単元】 摂食障害について			
	【到達目標】 上記の特徴と必要なスキルについて理解することができる					【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解することができる			
3	【授業単元】 初回面接について				11	【授業単元】 神経症について			
	【到達目標】 上記の特徴と必要なスキルについて理解することができる					【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解することができる			
4	【授業単元】 気分障害について①				12	【授業単元】 作業場面における評価について①			
	【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解することができる					【到達目標】 作業場面における症例の動きや症状をイメージすることができる			
5	【授業単元】 気分障害について②				13	【授業単元】 作業場面における評価について②			
	【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解することができる					【到達目標】 作業場面における症例の動きや症状をイメージすることができる			
6	【授業単元】 統合失調症について				14	【授業単元】 実際の症例について考えてみよう			
	【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解することができる					【到達目標】 症例について考えることで、評価についての包括的な視点を持つことができる			
7	【授業単元】 認知症について				15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説			
	【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解することができる					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小・中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験またはTeamsを利用して行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
精神科作業療法評価に必要な視点と知識について学び、現場での実践に備えましょう。									

授 業 概 要

科目名	精神心理系作業療法評価学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神心理系評価の定義、評価の手順、情報収集と解釈について理解する。対象者の基本情報を基に評価計画を立てることができる。評価面接と観察と記録の基本的な技法を身につける。各領域のアセスメント法及び代表的疾患の評価事例について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域、教育現場で約14年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行っていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
精神科リハビリテーション評価法ハンドブック 必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					必要な知識の理解と演習を通して、臨床で対象者へ評価を行うイメージを養っていきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 依存症について			
	【到達目標】 精神領域での作業療法の概要について知ることができる 上記における評価・介入のポイントについて理解することができる					【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる			
2	【授業単元】 精神科作業療法における情報収集について				10	【授業単元】 摂食障害について			
	【到達目標】 上記の特徴と必要なスキルについて理解したうえで、実践力を得ることができる					【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる			
3	【授業単元】 初回面接について				11	【授業単元】 神経症について			
	【到達目標】 上記の特徴と必要なスキルを理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる					【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる			
4	【授業単元】 気分障害について①				12	【授業単元】 精神科作業療法における評価について①			
	【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる					【到達目標】 上記についての特徴を理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる			
5	【授業単元】 気分障害について②				13	【授業単元】 作業場面における評価について②			
	【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる					【到達目標】 上記についての特徴を理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる			
6	【授業単元】 統合失調症について				14	【授業単元】 実際の症例について考えてみよう			
	【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる					【到達目標】 症例について考えることで、評価についての包括的な視点を持つことができる 症例検討を行うことで、評価の実践力を得ることができる			
7	【授業単元】 認知症について				15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説			
	【到達目標】 上記疾患についての特徴を理解したうえで、必要な評価について考え実践力を得ることができる					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小・中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験またはTeamsを利用して行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
精神科作業療法評価に必要な視点と知識について学び、現場での実践に備えましょう。									

授 業 概 要

科目名	作業療法総合評価学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法評価で得た複数の情報を解釈し、目標やプログラムへの転換していく流れや思考過程を事例を通して学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として19年間、身体障害分野の急性期・回復期病院、訪問リハビリに従事。大学院では作業療法教育に関する研究を実施した。作業療法評価の結果を統合して解釈する過程を教示する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
作業療法評価学(参考図書)									
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 (9/25)	【授業単元】 実習直前スペシャル① 現場でのコミュニケーションについて(対象者/指導者)				9 (12/4)	【授業単元】 臨床志向過程① 情報かもつ意味(情報の読み込みと評価計画について)			
	【到達目標】 作業療法学生として好ましい振る舞いを知り、実践する素地を形成できる。					【到達目標】			
2 (10/2)	【授業単元】 実習直前スペシャル② 「観察評価について」 対象者のしぐさ、反応、動作、活動、あらゆる場面での観察の基本を学ぶ。				10 (12/11)	【授業単元】 臨床志向過程② 多数の対象者情報をまとめて簡潔的に記載する方法(評価のまとめ)			
	【到達目標】 対象者の観察評価に基本を理解し、実践のイメージができる。					【到達目標】			
3 (10/9)	【授業単元】 実習直前スペシャル③ 「対象者の記録について」 実習日誌、カルテ記載など、対象者の記録方法の実際を学ぶ。				11 (12/18)	【授業単元】 臨床志向過程③ 対象者の利点と問題点を整理して因果関係を明らかにする(統合と解釈)			
	【到達目標】 記録の基本を理解し、簡単な実践ができる。					【到達目標】			
4 (10/30)	【授業単元】 実習の振り返り(観察、記録、対象者さんとのコミュニケーションはどの程度できたか?)				12 (1/15)	【授業単元】 臨床志向過程④ 目標設定とそれを達成するためのプログラムの考え方(目標・プログラムの立案)			
	【到達目標】 実習の振り返りを通して今後の具体的な学習計画を立てられる。					【到達目標】			
5 (11/6)	【授業単元】 対象者の記録について(第3回目の続き) SOAP				13 (1/22)	【授業単元】 症例報告について			
	【到達目標】 SOAPの基本を知り、実践ができる。					【到達目標】 症例報告の意義、基本的な実践法について理解できる。			
6 (11/13)	【授業単元】 作業療法評価のインフォームドコンセントについて(演習)① 対象者の状況を考慮しながら、正しい情報を相手に伝わる言葉に置き換えて伝えられるか。				14 (1/29)	【授業単元】 症例報告の作成(パワーコード) 第9～12回で取り上げた内容をパワーポイントにまとめる。			
	【到達目標】 作業療法評価についてのインフォームドコンセントの重要性を理解できる。					【到達目標】 情報をさらに要約し、パワーポイントにまとめることができる。			
7 (11/20)	【授業単元】 作業療法評価のインフォームドコンセントについて(演習)②				15 (2/5)	【授業単元】 定期試験 これまでのまとめ			
	【到達目標】 対象者の状況を想像しながら、適切な説明文を考えることができる。					【到達目標】 定期試験の合格			
8 (11/27)	【授業単元】 作業療法評価のインフォームドコンセントについて(演習)③				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 模擬対象者に対してインフォームドコンセントを実践できる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。				
【履修に当たっての心構え・留意点】					指示された課題作成を提出することによって中テストの点数を付与する。 小テストは適宜授業ないで行う。				
授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。					試験内容は単元に即して担当教員が決める。				

授業概要

科目名	義肢装具学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	森 優太		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法実践において義肢・装具の必要性を理解する 義肢装具の基礎知識を活かし、国家試験問題を解くことができる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
整形外科クリニックで経験を積んだ作業療法士教員が、義肢装具の基礎知識だけでなく疾患特性および作業療法との結びつきができるよう講義を行う 実際に装具や道具に触れ、イメージと知識が結びつけられる学習を行う が科系医学の講義と連携し、整形外科疾患と義肢装具の結びつきを図る									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
芋土社 PT・OTビジュアルテキスト作業療法義肢・装具学第1版					授業スライドの振り返りをしっかり行うこと 授業中に言うポイントをしっかり押さえること				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 作業療法と義肢装具				9	【授業単元】 上肢疾患と義肢装具			
	【到達目標】 作業療法を提供するにあたり義肢装具の必要性を理解する					【到達目標】 上肢疾患の装具の基礎知識を理解する 上肢疾患の基礎知識と作業療法を結びつけることができる			
2	【授業単元】 義肢概論				10	【授業単元】 下肢疾患と義肢装具			
	【到達目標】 義肢の基礎知識を理解する					【到達目標】 体幹・下肢・靴下装具の基礎知識を理解する 体幹・下肢・靴下装具の基礎知識と作業療法を結びつけることができる			
3	【授業単元】 義手概論				11	【授業単元】 車椅子・歩行補助具の基礎知識			
	【到達目標】 義手の基礎知識を理解する					【到達目標】 車椅子・歩行補助具の基礎知識を理解する			
4	【授業単元】 切断と作業療法				12	【授業単元】 末梢神経障害に必要な装具・スプリント概論			
	【到達目標】 切断の基礎知識と作業療法を結びつけることができる					【到達目標】 末梢神経障害に必要な装具・スプリントに関する基礎知識を理解する			
5	【授業単元】 能動義手・筋電義手の操作・制御				13	【授業単元】 スプリント療法の基礎知識			
	【到達目標】 能動義手・筋電義手の基礎知識を理解する					【到達目標】 スプリント療法の基礎知識を理解する			
6	【授業単元】 義手の評価				14	【授業単元】 スプリント演習			
	【到達目標】 義手の基礎知識を理解する評価に必要な知識を理解する					【到達目標】 スプリント作成を実際に行い、スプリントを用いた作業療法の必要性を理解する			
7	【授業単元】 能動義手・筋電義手と作業療法				15	【授業単元】 定期試験 総括			
	【到達目標】 能動義手・筋電義手の基礎知識と作業療法を結びつけることができる					【到達目標】 定期試験で6割以上の点数を取得することができる			
8	【授業単元】 中間テスト 補装具の使用制度				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 中間テストで6割以上の点数を取得することができる 現在行われている補装具の使用制度を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書内容をただ理解するだけでなく「なぜ？」と疑問を持ち受講すること 小テストは授業内容をもとに作成を行うため講義をしっかりと理解すること 受け身だけでなく発言の機会を多く設ける。積極的に発言すること									

授業概要

科目名	日常生活活動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	二瓶太志		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ICFにおける生活機能を概観し、日常でその生活機能に支障があった場合の改善策について理解し、工夫の方法を学ぶ。 作業療法の視点から日常生活活動を理解し述べるができる。日常生活動作の各活動について分析し特性を説明する。生活関連動作や社会的活動について理解し具体的に述べる。日常生活活動の定量評価について学び測定することができる。生活関連動作や社会的活動について理解し具体的に述べるができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として3年間急性期、7年間回復期を経験し、その後リハビリテーション部の責任者として2度の回復期リハビリテーション病院の開設に関わり、20年目の今もなお、幅広く臨床現場で多くの患者治療やセラピスト指導に携わっている教員が、日常生活動作についての基礎的な知識・技術を習得する授業を行う。実際の症例を紹介しながら、日常生活の実際や回復過程に触れる機会を設けていく。感染管理を行いながら、可能な限り、実演や実技、グループワークも活用して授業を進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ADLとその周辺					小テスト、定期テストに向けた復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】4/16-3 1. オリエンテーション 2. ADLとは 3. 基本的ADLと広域ADL 4. ADLとQOL 5. ICFとADL 6. 日常生活活動における作業療法の理念と役割を理解する				9	【授業単元】5/22-3 1. BI、FIMについて講義と演習② FIM運動項目			
	【到達目標】 ADL、IADL、QOLについて理解することが出来る。 OTの視点から日常生活活動をとらえ理解し述べるができる					【到達目標】 日常生活活動の定量評価について学び測定することができる			
2	【授業単元】4/16-4 基本動作、歩行について				10	【授業単元】5/22-4 1. BI、FIMについて講義と演習② FIM認知項目			
	【到達目標】 各動作の特徴と支援に必要な要素、工夫について考えることが出来る					【到達目標】 日常生活活動の定量評価について学び測定することができる			
3	【授業単元】4/23-3 食事動作、整容動作について				11	【授業単元】5/29-3 1. FIM採点の復習と採点の実際 2. AMPS、GOPM、QOL評価			
	【到達目標】 各動作の特徴と支援に必要な要素、工夫について考えることが出来る					【到達目標】 ADLの遂行能力、満足度等の評価について学ぶことができる。			
4	【授業単元】4/23-4 更衣動作、排泄動作について				12	【授業単元】5/29-4 1. FIM採点の復習と採点の実際 2. AMPS、GOPM、QOL評価			
	【到達目標】 各動作の特徴と支援に必要な要素、工夫について考えることが出来る					【到達目標】 ADLの遂行能力、満足度等の評価について学ぶことができる。			
5	【授業単元】4/30-3 入浴動作、コミュニケーションについて				13	【授業単元】6/5-3 1. 脳卒中者の入院生活や退院後の生活を知る			
	【到達目標】 各動作の特徴と支援に必要な要素、工夫について考えることが出来る					【到達目標】 脳卒中者の立場に立ち、ADLの実際を知ることができる 入院生活、退院後の生活で困ったことを理解できる			
6	【授業単元】4/30-4 IADL動作について				14	【授業単元】6/5-4 1. 定期テスト対策 復習			
	【到達目標】 各動作の特徴と支援に必要な要素、工夫について考えることが出来る					【到達目標】 定期テスト対策、復習			
7	【授業単元】5/15-3 1. ADLの定量評価				15	【授業単元】6/12-3 定期テスト実施・TEAMでの実施を予定			
	【到達目標】 日常生活活動の定量評価について学び測定することができる					【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたか知り、今後の学びに活かすことができる			
8	【授業単元】5/15-4 1. BI、FIMについて講義と演習① BI				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 日常生活活動の定量評価について学び測定することができる				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はTEAMS上で行う予定。 毎回授業の小テストは、各回5-6点満点とする。中テストは実施なし。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
適宜、実技を行うため、毎回動きやすい服装で受講してください。講師や仲間とのディスカッションを通して理解を深めていきますので、積極的な発言を期待しています。感染対策を徹底しながら授業を進めていきます。									

授業概要

科目名	日常生活活動学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	二瓶太志		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 作業療法の視点から日常生活活動を理解し述べることができる。 2. 日常生活活動に参加する能力を高める作業療法を実践できるようになる。 3. 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる。 4. 患者の入院生活や退院後の生活でのADLの実際や課題を理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として3年間急性期、7年間回復期を経験し、その後リハビリテーション部の責任者として2度の回復期リハビリテーション病院の開設に関わり、20年目の今もなお、幅広く臨床現場で多くの患者治療やセラピスト指導に携わっている教員が、日常生活動作についての基礎的な知識・技術を習得する授業を行う。実際の症例を紹介しながら、日常生活の実際や回復過程に触れる機会を設けていく。感染管理を行いながら、可能な限り、実演や実技、グループワークも活用して授業を進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ADLとその周辺					小テスト、定期テストに向けた復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】6/12-4 1. オリエンテーション 2. ADLの評価と支援について理解することができる				9	【授業単元】7/10-4 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.3 コミュニケーション、料理、掃除、洗濯、バス、電車、自動車、エスカレーター等 ②			
	【到達目標】 ADL、IADLについて復習し、理解することが出来る。 OTの視点から日常生活活動をとらえ理解し述べる事ができる ADLの評価と支援に関して理解することが出来る					【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる			
2	【授業単元】6/19-3 1. ADL能力向上のための治療アプローチについて -環境適応-				10	【授業単元】7/17-3 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脊髄損傷			
	【到達目標】 ADL能力向上のための治療アプローチを理解することができる。					【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる			
3	【授業単元】6/19-4 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.1 概要 身体障害と高次脳機能障害 起居・移動・移乗 ①				11	【授業単元】7/17-4 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 下肢骨折			
	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる					【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる			
4	【授業単元】6/26-3 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.1 概要 身体障害と高次脳機能障害 起居・移動・移乗 ②				12	【授業単元】7/24-3 実際の脳卒中者とのインタビューを通して、ADLの経過や課題の実際を理解することができる ADL能力向上に向けた、OT治療を見学する			
	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる					【到達目標】 実際の脳卒中症例のADL経過や課題を知り、イメージすることができる。 ADL能力向上に向けたOT治療を通して、OTのクリニカルリーズニングを深めることができる。			
5	【授業単元】6/26-4 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.2 食事、排泄、更衣 整容、入浴 ①				13	【授業単元】7/24-4 実際の脳卒中者とのインタビューを通して、ADLの経過や課題の実際を理解することができる ADL能力向上に向けた、OT治療を見学する			
	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる					【到達目標】 実際の脳卒中症例のADL経過や課題を知り、イメージすることができる。 ADL能力向上に向けたOT治療を通して、OTのクリニカルリーズニングを深めることができる。			
6	【授業単元】7/3-3 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.2 食事、排泄、更衣 整容、入浴 ②				14	【授業単元】7/31-3 ADL・治療実習振り返り 定期テスト対策			
	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる					【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたか知り、今後の学びに活かすことができる			
7	【授業単元】7/3-4 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.2 食事、排泄、更衣 整容、入浴 ③				15	【授業単元】7/31-4 定期テスト実施：TEAMSでの実施を予定			
	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる					【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたか知り、今後の学びに活かすことができる			
8	【授業単元】7/10-3 1. 障害別のADLと支援の実際を理解する 脳卒中 Vol.3 コミュニケーション、料理、掃除、洗濯、バス、電車、自動車、エスカレーター等 ①				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験はTEAMS上で行う予定。 毎回授業の小テストは、各回5-6点満点とする。中テストは実施なし。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴や支援の実際について説明できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
適宜、実技を行うため、毎回動きやすい服装で受講してください。講師や仲間とのディスカッションを通して理解を深めていきますので、積極的な発言を期待しています。感染対策を徹底しながら授業を進めていきます。									

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅱ（見学）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大橋航祐		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	1 単位	総時間数	45 時間
【授業を通じての到達目標】									
医療機関や福祉施設等の作業療法を見学し、対象者の回復過程、生活動作や意味のある作業の再獲得について体験的に学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として精神科病院、発達児童の放課後等デイサービス、訪問リハビリを経験。実習における気構えや心構え、必要な事前知識を伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
臨床実習Ⅱ 要項 各教科書					実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。				
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。									
・基本的能力の習得:社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール(倫理観など)									
・専門的能力の習得:作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) 基本的知識の習得									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。					実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。				

授業概要

科目名	実習準備教育Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	徳備 夏子		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床実習Ⅱでより効果的な学習ができるよう、必要な知識や技術の事前学習を実施する。また、実習終了後に自身の経験の振り返りと他者との共有を行うことによって、学習した内容と今後の課題を整理することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として精神科病院、発達児童の放課後等デイサービス、訪問リハビリを経験。臨床現場での学び工場に向けての事前準備、心構えを伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
臨床実習Ⅰ 要綱					地域の作業療法や実習についての既習事項を適宜復習してください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 実習オリエンテーション				9	【授業単元】 実習後オリエンテーション			
	【到達目標】 実習における目標や注意事項などについて理解することができる。					【到達目標】 実習における自身の目標を立てることができる。			
2	【授業単元】 実習地調べ				10	【授業単元】 発表準備			
	【到達目標】 自身が実習を行わせていただく実習地について調べ、効果的な実習につなげることができる。					【到達目標】 実習後の内容について理解することができる。			
3	【授業単元】 各領域について				11	【授業単元】 発表準備①			
	【到達目標】 各実習先に合わせた講師による事前対策					【到達目標】 実習における学びについて、まとめることができる。			
4	【授業単元】 各領域について				12	【授業単元】 発表準備②			
	【到達目標】 各実習先に合わせた講師による事前対策					【到達目標】 実習における学びについて、まとめることができる。			
5	【授業単元】 シミュレーションワーク①				13	【授業単元】 発表準備③			
	【到達目標】 実習で予測される事項についてシミュレーションを通して、効果的な行動を理解することができる。					【到達目標】 実習における学びについて、まとめることができる。			
6	【授業単元】 シミュレーションワーク②				14	【授業単元】 発表準備④			
	【到達目標】 実習で予測される事項についてシミュレーションを通して、効果的な行動を理解することができる。					【到達目標】 実習における学びについて、まとめることができる。			
7	【授業単元】 KYT①				15	【授業単元】 発表・レポート			
	【到達目標】 実習で予測されるリスクについて知り、適切にリスク管理を行うことができる。					【到達目標】 実習における学びについてアウトプットすることができる。			
8	【授業単元】 目標設定				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、AからFの6段階で評価を行う。 評価の配点については実習前の発表40点分と実習後の発表60点分にてルーブリック評価を用いて採点を行う。				
	【到達目標】 実習における目標を決めることができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習準備教育に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。									

授業概要

科目名	作業療法特定研究Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法に関連するテーマについて文献等を用いて調べる力を身につけ、各情報を要約して理解する力を身につける。 体験、内省、企画を通して、研究を実施する基盤となる読解力・表現力・問題解決力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
担当する教員は作業療法士の資格を持ち、臨床において多種多様な対象者を理解するため多くの調べ学習をしてきた。その経験を基に、作業療法に関連する学習の深め方、まとめ方、企画立案等を伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考書は適宜紹介する					疑問に思ったことを調べること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 調べ学習				9	【授業単元】 企画立案			
	【到達目標】 疑問に思ったことを調べることができる。 文献内容を要約することができる。					【到達目標】 作業療法に関連するワークショップの企画を立てることができる。			
2	【授業単元】 調べ学習				10	【授業単元】 企画立案			
	【到達目標】 疑問に思ったことを調べることができる。 文献内容を要約することができる。					【到達目標】 作業療法に関連するワークショップの企画を立てることができる。			
3	【授業単元】 調べ学習				11	【授業単元】 企画実施			
	【到達目標】 疑問に思ったことを調べることができる。 文献内容を要約することができる。					【到達目標】 作業療法に関連するワークショップを実施し、人とかかわる中で態度を見直すことができる。 相手にわかりやすく伝えることができる。			
4	【授業単元】 報告会				12	【授業単元】 企画実施			
	【到達目標】 調べた内容を報告することで伝わりやすい伝え方を考えることができる。					【到達目標】 作業療法に関連するワークショップを実施し、人とかかわる中で態度を見直すことができる。 相手にわかりやすく伝えることができる。			
5	【授業単元】 報告会の振り返り				13	【授業単元】 企画の振り返り			
	【到達目標】 振り返りにより、自身の到達度を理解できる。					【到達目標】 振り返りにより、自身の到達度を理解できる。			
6	【授業単元】 体験				14	【授業単元】 企画の振り返り			
	【到達目標】 体験学習で疑問に思ったことを調べることができる。					【到達目標】 振り返りにより、自身の到達度を理解できる。			
7	【授業単元】 体験				15	【授業単元】 定期試験 報告会			
	【到達目標】 体験学習で疑問に思ったことを調べることができる。					【到達目標】 企画の実施報告を他者へわかりやすく伝えることができる。 自分の考えをもって、プレゼンすることができる。			
8	【授業単元】 企画立案				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト及び授業への参加態度の合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表またはレポートまたは筆記試験で行う。 ・毎回の小テスト及び確認テストは各回5点満点とし、そのうち第8回を15点として、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 作業療法に関連するワークショップの企画を立てることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
学んだことを日常生活で振り返ること。									

授業概要

科目名	多職種連携論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法士が現場で多職種と連携するために必要な知識や考え方を身につける。 多職種の価値観の理解を深め、相手の立場に立って考えられるようになる。 多職種連携におけるマネジメント方法について理解できるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
主に回復期リハビリテーション病棟で多職種連携をしてきた教員が、臨床経験をもとに臨床現場に即した授業を行う。多職種連携をするために活用できる生活行為向上マネジメントを軸とした授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
配布資料 参考図書は随時紹介する					調べ学習 実習に向けて態度・コミュニケーション面の見直しをすること				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 多職種連携とは コミュニケーション			9	【授業単元】				
	【到達目標】 多職種連携をする際に必要なポイントについて理解できる。 多職種連携におけるコミュニケーションのポイントを理解できる。				【到達目標】				
2	【授業単元】 多職種の理解			10	【授業単元】				
	【到達目標】 多職種を調べ、どのような連携ができるかを考えることができる。				【到達目標】				
3	【授業単元】 多職種連携の実際			11	【授業単元】				
	【到達目標】 多職種がどのような思考で連携しているかを考えることができる。				【到達目標】				
4	【授業単元】 多職種連携の実際			12	【授業単元】				
	【到達目標】 多職種がどのような思考で連携しているかを考えることができる。				【到達目標】				
5	【授業単元】 実習態度の振り返り			13	【授業単元】				
	【到達目標】 コミュニケーション時の態度について内省することができる。				【到達目標】				
6	【授業単元】 実習態度の振り返り			14	【授業単元】				
	【到達目標】 コミュニケーション時の態度について内省することができる。				【到達目標】				
7	【授業単元】 MTDLP概論			15	【授業単元】				
	【到達目標】 MTDLPの概要について理解できる。				【到達目標】				
8	【授業単元】 MTDLP演習 定期試験			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 MTDLPの演習を通して、MTDLPの活用方法について理解できる。 定期試験で知識のアウトプットができる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 定期試験は筆記試験および発表にて行う。 毎回の小テスト及び確認テストは各回10点満点とし、そのうち第4回を20点として、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
多職種連携の基本はコミュニケーションです。実習中のコミュニケーション等を内省し、改善できることを考えながら受講してください。									

授業概要

科目名	臨床実践研究	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡辺陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
文献等による根拠を持った事例発表ができる。 現場で起きている事象を言語化するための知識と技術を身につける。 事例発表を通して、自身の臨床思考過程を深めることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害領域で7年の臨床経験があり、大学院での研究や学会発表をしている教員が、作業療法の臨床研究を行う上で必要な考え方を伝える。基本的な考え方から評価、統合と解釈、考察にいたる臨床思考過程について解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
実習で使用したディリーノート、ケースノート 参考図書は適宜紹介する					実習の発表に向けての学習。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 臨床推論			9	【授業単元】 プログラム立案				
	【到達目標】 目前に起こる対象者の現象を捉える視点を学習し、疑問や考察に繋げることができる。				【到達目標】 プログラム立案の方法について理解できる。				
2	【授業単元】 SOAPの書き方、事例報告			10	【授業単元】 プログラム立案				
	【到達目標】 SOAPの書き方、事例報告の流れがわかる。				【到達目標】 プログラム立案の方法について理解できる。				
3	【授業単元】 文脈、面接			11	【授業単元】 考察				
	【到達目標】 文脈のとらえ方を理解できる。 面接のポイントを理解できる。				【到達目標】 根拠に基づいた考察ができる。				
4	【授業単元】 文脈、面接			12	【授業単元】 考察				
	【到達目標】 文脈のとらえ方を理解できる。 面接のポイントを理解できる。				【到達目標】 根拠に基づいた考察ができる。				
5	【授業単元】 情報収集、ICFのまとめ			13	【授業単元】 作業遂行分析①				
	【到達目標】 情報収集の行い方について理解できる。 収集した情報をICFでまとめることができる。				【到達目標】 作業遂行分析のポイントを理解できる。 作業遂行の様子を文章化することができる。				
6	【授業単元】 情報収集、ICFのまとめ			14	【授業単元】 作業遂行分析②				
	【到達目標】 情報収集の行い方について理解できる。 収集した情報をICFでまとめることができる。				【到達目標】 作業遂行分析のポイントを理解できる。 作業遂行の様子を文章化することができる。				
7	【授業単元】 統合と解釈 目標設定			15	【授業単元】 作業遂行分析③ 定期テスト				
	【到達目標】 統合と解釈が文献等の根拠に基づいてできる。 対象者に合わせた目標設定ができる。				【到達目標】 作業遂行分析の様子を文章化することができる。 中テストを通して、自身の学習到達度を理解できる。				
8	【授業単元】 統合と解釈 目標設定			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 統合と解釈が文献等の根拠に基づいてできる。 対象者に合わせた目標設定ができる。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト及び授業への参加態度の合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表またはレポートまたは筆記試験で行う。 ・毎回の小テスト及び確認テストは各回5点満点とし、そのうち第8回を15点として、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業内容は学生の理解度によって変更する場合がある。									

授 業 概 要

科目名	地域作業療法学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床実習Ⅴで実際に見学した地域作業療法(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等)から、地域での作業療法士の役割を考えることができる。 作業療法の対象者が地域で活用できる社会資源について理解できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床経験5年以上かつ臨床実習指導者講習会修了者である作業療法士が、地域における作業療法について解説し、まとめや発表を通して理解を深める。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
配布資料、地域作業療法学改訂第2版(メジカルビュー)					日誌の作成、調べ学習				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 地域の社会資源	9			【授業単元】 地域作業療法の実際	【到達目標】 臨床実習Ⅴで実際にみた地域作業療法について振り返り、作業療法士の役割について考える ことができる。			
	【到達目標】 この科目の概要を理解できる。 地域の社会資源について理解できる。								
2	【授業単元】 地域の社会資源	10			【授業単元】 地域作業療法の実際	【到達目標】 臨床実習Ⅴで実際にみた地域作業療法について振り返り、作業療法士の役割について考える ことができる。			
	【到達目標】 地域の社会資源について理解できる。								
3	【授業単元】 地域作業療法に関連する制度	11			【授業単元】 地域作業療法の実際	【到達目標】 臨床実習Ⅴで実際にみた地域作業療法について振り返り、作業療法士の役割について考える ことができる。			
	【到達目標】 地域作業療法に関連する制度について理解できる。								
4	【授業単元】 地域作業療法に関連する制度	12			【授業単元】 地域作業療法の実際	【到達目標】 臨床実習Ⅴで実際にみた地域作業療法について振り返り、作業療法士の役割について考える ことができる。			
	【到達目標】 地域作業療法に関連する制度について理解できる。								
5	【授業単元】 地域の作業療法	13			【授業単元】 まとめ	【到達目標】 地域作業療法の意義や作業療法士の役割について自分の考えを述べる ことができる。			
	【到達目標】 地域での作業療法支援について考えることができる。								
6	【授業単元】 地域の作業療法	14			【授業単元】 まとめ	【到達目標】 地域作業療法の意義や作業療法士の役割について自分の考えを述べる ことができる。			
	【到達目標】 地域での作業療法支援について考えることができる。								
7	【授業単元】 地域の作業療法	15			【授業単元】 まとめ	【到達目標】 地域作業療法の意義や作業療法士の役割について自分の考えを述べる ことができる。			
	【到達目標】 地域での作業療法支援について考えることができる。								
8	【授業単元】 地域の作業療法	【成績評価の方法と基準】 授業態度、レポート、発表等により、A～Fの6段階で評価する。							
	【到達目標】 地域での作業療法支援について考えることができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
地域で生活する対象者、作業療法に興味を持ち取り組むことができる。									

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡辺陵介・大和田みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	8 単位	総時間数	360 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士としての実務経験が5年以上かつ臨床実習指導者講習会の修了者が実習を担当し、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
臨床実習Ⅲ要項 各教科書					実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。				
授業計画									
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。									
・基本的能力の習得:社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール(倫理観など)									
・専門的能力の習得:作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) 基本的知識の習得 作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能 全体像の把握・考察・記録 再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈 作業療法計画再立案									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。					実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。				

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅳ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺陵介・大和田みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	8 単位	総時間数	360 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。総合的に対象者像を把握できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士としての実務経験が5年以上かつ臨床実習指導者講習会の修了者が実習を担当し、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
臨床実習Ⅳ要項 各教科書					実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。				
授業計画									
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。									
・基本的能力の習得:社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール(倫理観など)									
・専門的能力の習得:作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) 基本的知識の習得 作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能 全体像の把握・考察・記録 再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈 作業療法計画再立案									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらえ行動することが求められる。					実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。				

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅴ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺陵介・大和田みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	1 単位	総時間数	45 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域生活支援を実践する場(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等)で実習をすることにより、地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士としての実務経験が5年以上かつ臨床実習指導者講習会の修了者が実習を担当し、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
臨床実習Ⅴ要項 地域作業療法学改訂第2版(メジカルビュー)					実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。				
授業計画									
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。									
・基本的能力の習得: 社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール(倫理観など)									
・専門的能力の習得: 作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) 基本的知識の習得 地域における作業療法の役割の理解 全体像の把握・考察・記録									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。					実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。				

授業概要

科目名	作業療法総合学習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
1.2年生で学んだ内容を総復習し、作業療法に関する学習を深める。 自身で計画的に作業療法の学習を行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
身体障害領域の回復期リハビリテーションを主として急性期・老健施設にて7年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。重要ポイントを解説しながら知識の定着を図ります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考資料は適宜紹介する					授業内容の予習復習 教材を使った自己学習				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 作業療法につながる解剖学			9	【授業単元】 作業療法につながる整形外科学				
	【到達目標】 解剖学の要点を理解できる。 解剖学と作業療法を繋げて理解できる。				【到達目標】 整形外科学の要点を理解できる。 整形外科学と作業療法を繋げて理解できる。				
2	【授業単元】 作業療法につながる生理学			10	【授業単元】 作業療法につながるリハビリテーション医学				
	【到達目標】 生理学の要点を理解できる。 生理学と作業療法を繋げて理解できる。				【到達目標】 リハビリテーション医学の要点を理解できる。 リハビリテーション医学と作業療法を繋げて理解できる。				
3	【授業単元】 作業療法につながる運動学			11	【授業単元】 総復習①				
	【到達目標】 運動学の要点を理解できる。 運動学と作業療法を繋げて理解できる。				【到達目標】 作業療法と基礎医学を結び付けて理解を深めることができる。				
4	【授業単元】 作業療法につながる病理学			12	【授業単元】 総復習②				
	【到達目標】 病理学の要点を理解できる。 病理学と作業療法を繋げて理解できる。				【到達目標】 作業療法と基礎医学を結び付けて理解を深めることができる。				
5	【授業単元】 作業療法につながる人間発達学			13	【授業単元】 総復習③				
	【到達目標】 人間発達学の要点を理解できる。 人間発達学と作業療法を繋げて理解できる。				【到達目標】 作業療法と基礎医学を結び付けて理解を深めることができる。				
6	【授業単元】 作業療法につながる神経医学			14	【授業単元】 総復習④				
	【到達目標】 神経医学の要点を理解できる。 神経医学と作業療法を繋げて理解できる。				【到達目標】 作業療法と基礎医学を結び付けて理解を深めることができる。				
7	【授業単元】 作業療法につながる内科学			15	【授業単元】 定期テスト(模試)と復習				
	【到達目標】 内科学の要点を理解できる。 内科学と作業療法を繋げて理解できる。				【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する				
8	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・課題提出・授業態度等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期試験はA:60点、B:50点、C:40点、D:30点、E:20点、F:10点として評定とする。					
	【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること									

授業概要

科目名	作業療法特別講義Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	大和田みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1.2年生で学んだ内容を総復習し、主に身体障害領域の作業療法に関する学習を深める。 自身で計画的に作業療法の学習を行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
様々な領域で臨床経験を積み、学会発表や大学院での学修等を行ってきた教員が、重要ポイントを解説しながら知識の定着を図ります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエスチョンバンク共通・専門					授業内容の予習復習 教材を使った自己学習				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 脳血管障害の作業療法①			9	【授業単元】 神経変性疾患の作業療法①				
	【到達目標】 脳血管障害の作業療法の要点を理解できる。				【到達目標】 神経変性疾患の作業療法の要点を理解できる。				
2	【授業単元】 脳血管障害の作業療法②			10	【授業単元】 神経変性疾患の作業療法②				
	【到達目標】 脳血管障害の作業療法の要点を理解できる。				【到達目標】 神経変性疾患の作業療法の要点を理解できる。				
3	【授業単元】 脳血管障害の作業療法③			11	【授業単元】 内部障害の作業療法①				
	【到達目標】 脳血管障害の作業療法の要点を理解できる。				【到達目標】 内部障害の作業療法の要点を理解できる。				
4	【授業単元】 脳血管障害の作業療法④			12	【授業単元】 内部障害の作業療法②				
	【到達目標】 脳血管障害の作業療法の要点を理解できる。				【到達目標】 内部障害の作業療法の要点を理解できる。				
5	【授業単元】 運動器疾患の作業療法①			13	【授業単元】 内部障害の作業療法③				
	【到達目標】 運動器疾患の作業療法の要点を理解できる。				【到達目標】 内部障害の作業療法の要点を理解できる。				
6	【授業単元】 運動器疾患の作業療法②			14	【授業単元】 がんの作業療法				
	【到達目標】 運動器疾患の作業療法の要点を理解できる。				【到達目標】 がんの作業療法の要点を理解できる。				
7	【授業単元】 運動器疾患の作業療法③			15	【授業単元】 定期テストと復習				
	【到達目標】 運動器疾患の作業療法の要点を理解できる。				【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する				
8	【授業単元】 確認テストと復習			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・課題提出・授業態度等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期試験はA:60点、B:50点、C:40点、D:30点、E:20点、F:10点として評定とする。					
	【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること									

授業概要

科目名	作業療法特別講義Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	大和田みな未		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1,2年生で学んだ内容を総復習し、主に身体障害領域の作業療法に関する学習を深める。 自身で計画的に作業療法の学習を行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
様々な領域で臨床経験を積み、学会発表や大学院での学修等を行ってきた教員が、重要ポイントを解説しながら知識の定着を図ります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考資料は適宜紹介する					授業内容の予習復習 教材を使った自己学習				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 福祉用具と作業療法①			9	【授業単元】 義肢装具学と作業療法①				
	【到達目標】 作業療法に関連する福祉用具の要点を理解できる。				【到達目標】 主に義手に関連する作業療法について理解できる。				
2	【授業単元】 福祉用具と作業療法②			10	【授業単元】 義肢装具学と作業療法②				
	【到達目標】 作業療法に関連する福祉用具の要点を理解できる。				【到達目標】 主に装具に関連する作業療法について理解できる。				
3	【授業単元】 住環境整備と作業療法①			11	【授業単元】 身体障害領域の作業療法①				
	【到達目標】 住環境整備の要点を理解できる。				【到達目標】 身体障害領域の作業療法の要点を理解できる。				
4	【授業単元】 住環境整備と作業療法②			12	【授業単元】 身体障害領域の作業療法②				
	【到達目標】 住環境整備の要点を理解できる。				【到達目標】 身体障害領域の作業療法の要点を理解できる。				
5	【授業単元】 身体障害領域の評価法①			13	【授業単元】 身体障害領域の作業療法③				
	【到達目標】 身体障害領域の評価の要点を理解できる。				【到達目標】 身体障害領域の作業療法の要点を理解できる。				
6	【授業単元】 身体障害領域の評価法②			14	【授業単元】 身体障害領域の作業療法④				
	【到達目標】 身体障害領域の評価の要点を理解できる。				【到達目標】 身体障害領域の作業療法の要点を理解できる。				
7	【授業単元】 身体障害領域の評価法③			15	【授業単元】 定期テスト(模試)と復習				
	【到達目標】 身体障害領域の評価の要点を理解できる。				【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する				
8	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・課題提出・授業態度等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期試験はA:60点、B:50点、C:40点、D:30点、E:20点、F:10点として評定とする。					
	【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること									

授 業 概 要

科目名	作業療法特別講義Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法士が身につけるべき基礎・応用知識(精神領域)を総復習し、確認問題には80%以上正答することが出来る。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として19年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年となる。現在は就労支援事業所を運営している。 国家試験対策の指導歴は12年目。OT現役学生はもちろん、OT卒後生や他資格(理学療法士、精神保健福祉士など)の学生への指導歴もあり、これまでに数百人の国家試験合格に携わっている。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基本資料) 授業内で資料を配布。 参考資料) クエスチョンバンク 2027 共通・専門					授業内容や配布資料を整理し、自分なりにまとめる。				
回(コマ)	授業計画				回(コマ)	授業計画			
1,2 3,4 5,6 7,8	【授業単元】 いろいろな疾患を広く振り返る <前期>①～④ 【到達目標】 正答率80%				23,24	【授業単元】 摂食障害 <後期>⑧ 【到達目標】 正答率80%			
9,10	【授業単元】 統合失調症 <後期>① 【到達目標】 正答率80%					25,26	【授業単元】 神経症 <後期後半>① 【到達目標】 正答率80%		
11,12	【授業単元】 統合失調症 <後期>② 【到達目標】 正答率80%				27,28		【授業単元】 神経症 <後期後半>② 【到達目標】 正答率80%		
13,14	【授業単元】 統合失調症 <後期>③ 【到達目標】 正答率80%					29,30	【授業単元】 パーソナリティ障害 <後期後半>③ 【到達目標】 正答率80%		
15,16	【授業単元】 統合失調症 <後期>④ 【到達目標】 正答率80%				31,32		【授業単元】 アルコール依存症 <後期後半>④ 【到達目標】 正答率80%		
17,18	【授業単元】 気分障害 <後期>⑤ 【到達目標】 正答率80%					33,34	【授業単元】 依存症(アルコール以外) <後期後半>⑤ 【到達目標】 正答率80%		
19,20	【授業単元】 気分障害 <後期>⑥ 【到達目標】 国試に出題される気分障害の問題に正答できる。 正答率80%				35,36		【授業単元】 定期テスト・まとめ <後期後半>⑥ 【到達目標】 これまでの内容を全てふまえ、正答率80%を達成する。		
21,22	【授業単元】 気分障害 <後期>⑦ 【到達目標】 正答率80%					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 100点の内訳は、 初回 と 第5回 --- 小テストなし 上記以外は、小テスト 10点満点 × 16回 = 160点満点 成績上では、160点満点 ÷ 4 = <u>40点満点</u> で算出する。(小数点以下は切り上げる) 定期テスト <u>60点満点</u> (以上で、合計100点 満点)			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
「反復」を大切にする。 「過去問」をやりこむ。					※ 中テストは行わない。 ※ 小テストは前回の授業の内容で実施。 例) 第10回目の授業の内容の内容 ⇒ 第11回目の授業内にて小テスト実施				

授業概要

科目名	作業療法特別講義Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	大橋航祐		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1,2年生で学んだ内容を総復習し、主に高齢期領域の作業療法に関する学習を深める。 自身で計画的に作業療法の学習を行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
様々な領域で臨床経験を積み、学会発表や大学院での学修等を行ってきた教員が、重要ポイントを解説しながら知識の定着を図ります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエスチョンバンク共通・専門					授業内容の予習復習 教材を使った自己学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 高齢期の生理的变化①				9	【授業単元】 認知症①			
	【到達目標】 高齢期の生理的变化について理解できる。					【到達目標】 主にアルツハイマー型認知症について理解できる。			
2	【授業単元】 高齢期の生理的变化②				10	【授業単元】 認知症②			
	【到達目標】 高齢期の生理的变化について理解できる。					【到達目標】 主にレビー小体型認知症について理解できる。			
3	【授業単元】 高齢期に多い疾患①				11	【授業単元】 認知症③			
	【到達目標】 高齢期に多い疾患の基礎知識について理解できる。					【到達目標】 主に前頭側頭型認知症について理解できる。			
4	【授業単元】 高齢期に多い疾患②				12	【授業単元】 認知症④			
	【到達目標】 高齢期に多い疾患の基礎知識について理解できる。					【到達目標】 主に血管性認知症について理解できる。			
5	【授業単元】 フレイル				13	【授業単元】 高齢期疾患と作業療法①			
	【到達目標】 フレイルの概念について理解できる。					【到達目標】 高齢期疾患の作業療法について理解できる。			
6	【授業単元】 高齢期と栄養				14	【授業単元】 高齢期疾患と作業療法②			
	【到達目標】 高齢者が抱える栄養問題について理解できる。					【到達目標】 高齢期疾患の作業療法について理解できる。			
7	【授業単元】 サルコペニア				15	【授業単元】 定期テストと復習			
	【到達目標】 サルコペニアについて理解できる。					【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する			
8	【授業単元】 確認テストと復習				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・課題提出・授業態度等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期試験はA:60点、B:50点、C:40点、D:30点、E:20点、F:10点として評定とする。				
	【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること									

授 業 概 要

科目名	作業療法特別講義Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	大橋航祐		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1,2年生で学んだ内容を総復習し、主に高齢期領域の作業療法に関する学習を深める。 自身で計画的に作業療法の学習を行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
様々な領域で臨床経験を積み、学会発表や大学院での学修等を行ってきた教員が、重要ポイントを解説しながら知識の定着を図ります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考資料は適宜紹介する					授業内容の予習復習 教材を使った自己学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 介護保険①				9	【授業単元】 高齢者と住環境整備①			
	【到達目標】 介護保険制度について理解できる。					【到達目標】 高齢者の住環境整備について理解できる。			
2	【授業単元】 介護保険②				10	【授業単元】 高齢者と住環境整備②			
	【到達目標】 介護保険制度について理解できる。					【到達目標】 高齢者の住環境整備について理解できる。			
3	【授業単元】 地域包括ケアシステム①				11	【授業単元】 高齢期作業療法の評価①			
	【到達目標】 地域包括ケアシステムについて理解できる。					【到達目標】 高齢期作業療法で用いられる評価法について理解できる。			
4	【授業単元】 地域包括ケアシステム②				12	【授業単元】 高齢期作業療法の評価②			
	【到達目標】 地域包括ケアシステムについて理解できる。					【到達目標】 高齢期作業療法で用いられる評価法について理解できる。			
5	【授業単元】 障害者総合支援法①				13	【授業単元】 高齢期作業療法の介入①			
	【到達目標】 障害者総合支援法について理解できる。					【到達目標】 高齢期領域で用いられる作業療法介入について理解できる。			
6	【授業単元】 障害者総合支援法②				14	【授業単元】 高齢期作業療法の介入②			
	【到達目標】 障害者総合支援法について理解できる。					【到達目標】 高齢期領域で用いられる作業療法介入について理解できる。			
7	【授業単元】 高齢期のQOL				15	【授業単元】 定期テスト(模試)と復習			
	【到達目標】 高齢者のQOLについて					【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する			
8	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・課題提出・授業態度等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期試験はA:60点、B:50点、C:40点、D:30点、E:20点、F:10点として評定とする。				
	【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取る									

授業概要

科目名	作業療法特別講義Ⅳ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1,2年生で学んだ内容を総復習し、主に発達領域の作業療法に関する学習を深める。 自身で計画的に作業療法の学習を行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
様々な領域で臨床経験を積み、学会発表や大学院での学修等を行ってきた教員が、重要ポイントを解説しながら知識の定着を図ります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエスチョンバンク共通・専門					授業内容の予習復習 教材を使った自己学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 人間発達学と作業療法①				9	【授業単元】 脳性麻痺と作業療法①			
	【到達目標】 人間発達学をベースにした作業療法について理解できる。					【到達目標】 脳性麻痺の作業療法について理解できる。			
2	【授業単元】 人間発達学と作業療法②				10	【授業単元】 脳性麻痺と作業療法②			
	【到達目標】 人間発達学をベースにした作業療法について理解できる。					【到達目標】 脳性麻痺の作業療法について理解できる。			
3	【授業単元】 人間発達学と作業療法③				11	【授業単元】 脳性麻痺と作業療法③			
	【到達目標】 人間発達学をベースにした作業療法について理解できる。					【到達目標】 脳性麻痺の作業療法について理解できる。			
4	【授業単元】 自閉症スペクトラムと作業療法①				12	【授業単元】 脳性麻痺と作業療法④			
	【到達目標】 自閉症スペクトラムの作業療法について理解できる。					【到達目標】 脳性麻痺の作業療法について理解できる。			
5	【授業単元】 自閉症スペクトラムと作業療法②				13	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法①			
	【到達目標】 自閉症スペクトラムの作業療法について理解できる。					【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法について理解できる。			
6	【授業単元】 ADHDと作業療法①				14	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法②			
	【到達目標】 ADHDの作業療法について理解できる。					【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法について理解できる。			
7	【授業単元】 ADHDと作業療法②				15	【授業単元】 定期テストと復習			
	【到達目標】 ADHDの作業療法について理解できる。					【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する			
8	【授業単元】 確認テストと復習				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・課題提出・授業態度等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期試験はA:60点、B:50点、C:40点、D:30点、E:20点、F:10点として評定とする。				
	【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること									

授業概要

科目名	作業療法特別講義Ⅳ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1,2年生で学んだ内容を総復習し、主に発達領域の作業療法に関する学習を深める。 自身で計画的に作業療法の学習を行うことができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
様々な領域で臨床経験を積み、学会発表や大学院での学修等を行ってきた教員が、重要ポイントを解説しながら知識の定着を図ります。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考資料は適宜紹介する					授業内容の予習復習 教材を使った自己学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 発達障害に関わる法律や制度①				9	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法介入①			
	【到達目標】 発達障害に関わる法律や制度について理解できる。					【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法介入について理解できる。			
2	【授業単元】 発達障害に関わる法律や制度②				10	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法介入②			
	【到達目標】 発達障害に関わる法律や制度について理解できる。					【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法介入について理解できる。			
3	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法の評価①				11	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法介入③			
	【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法の評価について理解できる。					【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法介入について理解できる。			
4	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法の評価②				12	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法介入④			
	【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法の評価について理解できる。					【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法介入について理解できる。			
5	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法の評価③				13	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法介入⑤			
	【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法の評価について理解できる。					【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法介入について理解できる。			
6	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法の評価④				14	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法の総復習			
	【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法の評価について理解できる。					【到達目標】 総復習を通して発達過程障害領域の作業療法の理解を深めることができる。			
7	【授業単元】 発達過程障害領域の作業療法の評価⑤				15	【授業単元】 定期テスト(模試)と復習			
	【到達目標】 発達過程障害領域の作業療法の評価について理解できる。					【到達目標】 定期テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する			
8	【授業単元】 確認テスト(模試)と復習				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・課題提出・授業態度等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記試験で行う。小テストは最終的に40%へ換算して点数化する。 定期試験はA:60点、B:50点、C:40点、D:30点、E:20点、F:10点として評定とする。				
	【到達目標】 確認テストと復習を通して自身の学習の修得度を理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業では、適宜ノートやメモを取ること									